

## 「ひとりを大切に」

神戸生田教会 大塚 篤



あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つかるまでは捜し歩かないであろうか。

ルカ15・4

この頃、教会学校の分校に行っていた当時のことを思い出します。山内さんという婦人が、家庭を開放して教会学校の分校を開いてくださったっていました。山内さんは、都会で暮らしておられた方でしたが、ご主人様のお仕事の都合でしようか、私の郷里の田舎に引越して来られていました。山内さんが、分校を開くようになったきっかけは、お子さんが学校でいじめに遭い怪我をして帰ってこられたことであったとお聞きました。心を痛め、祈っておられる時に、「あなたがしなさい」という神様からのお迫

りを頂いて、始められたそうです。教会学校の山内さんの始められた分校は評判となり、近隣の村々から大勢の子どもたちが集まりました。クリスマスには百人ほどの子どもたちが集まっていました。そして、請われるままに、ほかに分校を二つほど開いておられたように記憶しています。その後、ご主人様のお仕事の都合で他のところにお移りになり、分校はなくなってしまうしました。その時、子ども心に大変悲しく思ったことを思い出します。その後、私の家族が救われ、私が献身して神学校に行っていることを知って、大変喜んでくださいました。そして、以後ずっと祈って下さいました。

ある時、わざわざ私の牧会する教会を訪ねてくださいました。その時、あの分校を開いておられた当時の思い出話になりました。私が、「いつも自分のほしかったものが、クリスマスのプレゼントにもらえて嬉しかったです」と言いますと、山内さんは、「今度のクリスマスには何をあげようかと、半年前から祈りつつ、一人ひとり違ったものを用意したのよ」と言われました。一人ひとりを大切にして祈りつつご奉仕してくださいましたことに感銘を受けました。

この一人ひとりを大切にするスピリットをもって教会学校のご奉仕をして行きたいと思います。そうするならば、神様は、必ず実を結ばせてくださいます。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
教師養成講座「聖書の教える人格教育」	
第四回 人格教育の方法3 発見学習	3
キリストとは誰か	10
2 10/23	11
旧約⑧「捕囚期」	10
30 11/20	35
クリスマス	11
27 12/25	59
牧羊ひろば（鎌倉深沢教会）	89
カリキュラム	93
「牧羊者」のご購読・ご利用について	94
おわりに	94

### 〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギリ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
 こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教  
 団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出  
 版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいん子  
 どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以  
 上、日本児童福音伝道協会）、PW：「ブレイズワールド」（リビングブレイズ）

# 聖書の教える人格教育

## 第四回 人格教育の方法3 発見学習

徳島栄光教会 森沢尚生



聖書には人格教育が勧められており、それは、子供をありのままに受け入れて、あるべき姿に導くことであり、示唆して気付かないなら説得し、説得してもダメなら命令し、命令してもダメなら強制するという順番に教えて、子供を人格として扱うことでした。そして発見学習によつて、子供たちが価値を発見し、自分の価値観をもつようになり、神の国の価値観とすり合わせて、神を発見するように導きたいのです。

### 一、発見学習の環境

失敗が許される環境にないと、子供たちは挑戦しませ

ん。失敗したらひどく叱しかられる環境や親が子供に失敗させないように仕向けた過保護な環境では、子供たちは挑戦ができないのです。そして、挑戦できないため、発見学習ができなくなり、自分で価値や価値観を発見することができなくなります。

そこで、子供が人格として扱われる環境が必要とされます。ありのままに受け入れてもらえ、あるべき姿に導いてもらうことができる環境であり、いきなり強制されたり、罰を恐れさせたりして行動させられるのではなく、示唆されて自発的な行動が促され、それでできないとコーチしてもらえ、それでできないならできるようにトレーニングしてもらえ、どうしても危険な時は、強制的

に止めてもらええる環境が、安全な環境なのです。

環境を整えて子供が自分で挑戦し、発見学習ができる  
と、価値とか価値観というものを発見してゆきます。こ  
うして子供たちは、自分なりの価値や価値観をもつよう  
になり、いずれ神の国の福音を聞く時、自分の価値観と  
神の国の価値観とがぶつかり、どっちが正しい、どっち  
が優れているということを発見し、あるいは神を発見す  
るかもしれないのです（使徒17・27）。

## 二、発見学習の命題

神様は『われわれに似るように』と言って人間を造ら  
れました。

そして『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ』  
と命じられ、繁栄と統治という命題を与えられました。  
また神様は、『園のどの木から取って食べてもよい、しか  
し善悪を知る知識の木の実を取って食べてはならない。  
取って食べると、必ず死ぬ』と命じられ、自由と責任と  
いう命題を与えられました。

さらに神様は『父母を離れ、ふたりは一体となる』と、

自立と一致という命題もお与えになりました。

人類は、これらの命題に取り組むことによって、神に  
人格的に似ていくということが起きます。そこで、子供  
にとつての繁栄と統治とは何かというと、いろんなこと  
ができるようになること、そしていろんなことがコン  
ロールできるようになることでしょう（繁栄と統治を学  
ぶには、工作やモンテッソーリ法が有効）。

また子供にとつて自由と責任とは何かというと、自  
分のしたいことができるようになることと、その責任を自  
分で引き受けることでしょう（自由と責任を学ぶにはモ  
ンテッソーリ法が有効）。

そして子供にとつて自立と一致とは何かというと、保  
護者の手を離れて行動できるようになることと、他の子  
と仲良くすることでしょう（自立を学ぶにはモンテッ  
ソーリ法、一致を学ぶにはごっこ遊びやゲームが有効）。  
いろんなことができるようになり、いろんなことがコン  
トロールできるようになること、自分のしたいことがで  
きるようになり、自分の言動の責任を自分が引き受ける  
こと、保護者の手を離れて行動し、他の子と仲良くする  
こと、これらを発見学習によって体験させることが、ま

た人格教育なのです。

## 三、発見学習による自立

発見学習とは、自分のしていることを自覚し（自覚）、自分のしたことを反省し（自省）、自分をコントロールできるようになり（自制）、自分から挑戦し（自発）、自分で学び（自学）、自分で自分の言動に責任をとっていく（自己責任）ようになり、自立してゆくことです。そこには自覚、自省、自制、自発、自学、自己責任といった要素があり、それらのことができるようになるのが自立するということです。

例えばトイレトレーニングが解りやすいでしょう。子供は『これがおしっこがしたいという感覚だ』と、「自覚」します。自覚しても最初は自分でできずに、おしめの中にしてしまいます。トイレがしたいと言うようになっても何度も失敗し「反省」して何とかトイレを使いはじめます。そうして尿意を感じたらトイレまで我慢する「自制」ができるようになり、なんとかトイレで大小便をするようになります。それでも「自発」的にトイレ

でするようになるまで何年もかかり、トライ＆エラーを繰り返し、親に助けられながらだんだん親抜きでやってみて「学び」ます。最後に紙で拭き、トイレを流し、手を洗って「自己責任」をとるようになり、トイレに關しての自立が果たせます。

人格は、自立しないといけません。自分で気付き、自分で反省し、自分で制御し、自分から発して行動し、自分で行為や知識、技術、価値を発見して身に付け、自分で後始末できるようにしないと、自立した人間ではありません。自分のしたことを責任を取らない人間は、悔い改めません。悔い改めない人間は、救われません。自立した者が神の前に立つて、悔い改め、主イエスを受け入れて、罪を赦され、主とひとつになつていくのです。

## 四、有効な発見学習

そこで、子供が人格的に成長するのに有効な発見学習を筆者が試してきた方法の中から提案します。

## 1、モンテッソーリ法（幼児教育）

マリア・モンテッソーリ（イタリヤ初の女医）が、開発した幼児教育法で、世界中に、この方法の幼児教室があります。まず、日常生活の訓練、感覚器の訓練、言語の学習、算数の学習に益すること、発見学習になる教材を用意します。子供たちは、自発的に自分で教具を選びます。教具で遊びながら、できなかった教具ができるようになる練習をします（例、ハサミ、独<sup>こ</sup>楽）。練習が終わったら、教具をもとの位置に戻します。

ありのまま受け入れられ、あるべき姿に導かれ、挑戦が勧められ、できないことが示唆、説得、訓練、自己責任の順に教えられます（この方法は、繁栄や自由と責任、自立を学ぶのに有効です）。

## 2、いろいろな遊び

私どもの幼児教室では、異年齢の子供集団でゲームをする時間があります。ここでは、ドッチボールのようなスポーツや昔からの伝承遊びをします。昔から伝承され

て今に伝わる遊びには、例えば鬼ごっこ、かくれんぼ、だるまさんがころんだなどがあります。これら伝承遊びは、鬼の立場と逃げる立場を入れ替えて遊びます。ごっこ遊びによって子供達は、ルールの存在を知り、目に見えないものに目をおくことができます。また、立場を入れ替えて、相手の立場に立つ経験ができます。また、小さい子への配慮や場の空気、今は何をする時かを読む必要に迫られてコミュニケーション能力を身に付けてゆきます。その他にも目に見えないものに目をおく要素があります。

- ・競争要素…結果には差がある。
  - ・偶然要素…偶然おきる事態に対処しないといけない。
  - ・疑似要素…立場や役割がある。
  - ・冒険要素…自分にも、他人にも限界や限度がある。
- （この方法は、一致を学ぶのに有効です。）

## 3、工作

子供の人格を成長させるのには、工作は有効です。聖書における神様の自己紹介の一番はじめは、創造者であ

るということでした。また神様は、罪を犯した人類に作物を作らせ、子供を作らせるということとをさせられました。仕事をして作物を作ること、家庭をもつて子供を作ること、罪を犯した人類に罪を自覚させ、悔い改めに導くのに有効だということです。

物を作ると、作った物に責任が生じます。

また物を作ると、作った物に所有が生じます。

また物を作ると、作った物に愛が生じます。

物を作ることによって、作った物に責任があること、それが悪ければ裁かないといけないこと、しかし作った者は作った物を壊したのではなく、作った物を愛して、手元におきたいことが身をもつて理解できます。作ることは、創造者の責任、所有、裁き、愛を自覚させることができるので、人格教育に有効なのです（この方法は、繁栄と統治を学ぶのに有効です）。

## 五、幾つかの段階をつけて乗り越えさせる

多くの子供は、できないことができるようになることを喜びます。しかし中には、できないことや苦手なことを

に挑戦するのを極度に嫌がる子供がいます。優しく丁寧に一緒にやろうと誘っても「イヤー」の一言で拒絶されてしまうのです。そんな時は、どのように教育すればよいのでしょうか。

Kくんの場合、小学生になっても自転車に乗れませんでした。教室に来て、やってみようかと勧められると、キック自転車（ペダルがない）にまたがりはしますが、ほんの5秒ほどで、「疲れた」と言い出し、もうちょっと続けようと励ますと、もう5秒ほどやってみせて「足が痛い」とか言い出すのです。無理やりやらせて1日で自転車に乗れるようにするメソッドはありますが、人格教育の目的は、自転車に乗れるようにすることではなく、自分でできないことに挑戦し、自分でできるようになる体験をし、成功体験を得ることによって、他の課題に対しても自分で取り組み、自分で克服してゆくようになることです。無理やりできるようにしても意味がありません。

そこで、幾つかの段階を作るという方法が有効です。いきなり大人用の自転車で練習して乗れるようになる子もいます。しかし、そんな子は稀です。補助車輪つきの



子供用自転車に何か月か乗せて、補助輪を取っていくという方法をとることが一般的に多いでしょう。その場合は、3段階を作って挑戦させています。

第1段階 補助車輪付自転車に乗せる

第2段階 補助車輪を片方取る

第3段階 補助車輪を無くす

しかし、それさえも嫌がる子には、バランス感覚を身につけるところから始めます。

第1段階 竹渡り（縦半分に切った竹の上を歩く）

第2段階 キックボード（地面を蹴って乗るボード）

第3段階 キック自転車（ペダルのない自転車）

第4段階 普通の自転車で地面を蹴って乗る

第5段階 自転車のペダルをこいで乗る

Kくんの場合、キック式の自転車にまたがってもすぐにやめようとするので、今日は3回止まるまで、来週は4回、再来週は5回と増やしていこうと提案します。そうしてキック式自転車に長く乗れるようになると、それが気持ちよくなって、長く練習するようになりました。そしてキック式自転車に長い時間地面に足をつけずに乗れるようになったので、子供用の自転車（ペダル付き）

に乗って地面を蹴って進む練習に移りました。これをうまくできるようになると、地面を蹴って進んでから、ペダルに足を乗せて進む練習をし、ついにペダルをこいで進むようになったのです。

Kくんは何でも「僕はできない」と、へたれてしまう子でしたが、自分も他の子よりは時間がかかってもできるようにするということを体験し、あきらめないようになりました。この後もボールを投げて的にあてる練習があるんですが、幼稚園の子にぬかれてベンをかいていました。しかし、泣きながらもあきらめないでやりつづけ、ボールを的にあてることも上手になりました。自転車の成功体験によって、挑戦、練習、忍耐の価値を知り、自転車以外のことにも挑戦するようになっていったのです。

## 六、聖書はどう教えているでしょう

Iコリント13・4～8を開いてください。

まず『愛は寛容であり』と、愛は、人ありのまま受け入れることだと教えています。



また『愛は情け深い（親切）』と、教えています。情け深いとは、深い同情心という意味で、愛は、相手の立場に立つてものごとを考えることだと教えています。

また『ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない』と、愛は人と比べないことだと、教えています。

また『不作法をしない』と、教えています。不作法とは、正式な扱いをしないという意味で、愛は人を人格として扱うことだと、教えています。

また『自分の利益を求めない、いらだたない（怒らず）、恨みをいだかない（人のした悪を思わず）。不義を喜ばないで真理を喜ぶ』と、4つに共通して自分の都合を相手に押しつけないことだと、教えています。

そして、最後の4つに『すべてを忍び（我慢し）、すべてを信じ、すべてを望み（期待し）、すべてを耐える』と教えています。初めの『我慢し』と最後の『耐え忍びます』が同じ意味になってしまえますから、先の『すべてを忍び（我慢し）』の方は、新改訳聖書の欄外注にあるように、「カバーし」と訳したほうがよいでしょう。この場合、カバーは、擁護もしくは庇護という意味で、失敗をカバーするということです。

では、擁護し、信じ、期待し、耐え忍ぶべき「すべて」とは何でしょう。ウチの子は、絶対に万引きなんてしないと『信じる』ことは、すべてを信じることでしょいか。でしたら、万引きなんてしないと『耐え忍ぶ』というのは、意味が通じません。

そこで、神は愛ですから、神様の愛は人に対して、すべてカバーし、信じ、期待し、耐え忍んでおられるはずです。しかし神様は、人が罪を犯さないと信じてはおられません。全ての人は罪人ですが、神様は、全ての人が悔い改めるのを待っておられるのです。神様は、人は、今は悔い改めず、今は信じてなくても、いずれ信じて救われると、カバーし、信じ、期待し、耐え忍んでおられるのです。神様の愛は、「今はできないけどいずれできる」と、カバーし、信じ、期待し、耐え忍ぶ愛なのです。そして、ここで解るのは、すべてをカバーし、すべてを信じ…の「すべて」は、「今はできないけどいずれできる」ことなのです。

そこで、私たちも、自分の子供や生徒が悪いことをしないと信じてはいけません。彼らは、万引き、傷害、いじめも起こすでしょう。しかし、神様が人を愛してくだ

さった愛のように「今はできないけどいざれできる」と、カバーし、信じ、期待し、耐え忍ぶことが必要なのです。犯罪を犯した子供でも、今はぐれているけれどもいざれ立ち直ると、カバーし、信じ、期待し、忍耐してやること、全ての子供に、すべてのことにおいて「今はできないけどいざれできる」と、カバーし、信じ、期待し、耐え忍んであげることが愛なのです。

かつて非行に走って、少年鑑別所や少年院に入れられて今は更生した人が言っていたことが忘れられません。「同じように非行少年だった仲間で、立ち直って更生した奴と、更生できないで今も犯罪を犯し続けている奴がいる。」「どこでその差がついたかというと、親に見限られた奴と親に見限られなかった奴との差だ。」「親に『この子はどうしようもないので少年院に入れてください』と言われた奴は、更生しなかった。」「親に『自分たちが責任を持って更生させますから、少年院は猶予してください』と、言ってもらえた奴は更生した。」と、述懐していました。

子供が人格として扱われる安全な環境をつくり、子供自らに発見学習をさせ、今はできないけれどもいざれで

きると擁護し、今はできないけれどもいざれできると信じ、今はできないけれどもいざれできると期待し、今はできないけれどもいざれできると待つてあげることによって、子供たちの人格を自立に導くのが、人格教育なのです。

# 聖書 ヨハネ11・17〜27 テーマ 命なるキリスト

## 序論

(石田高保)

私たちの生活と人生の中で思いがけないことが起きるのを避けることはできません。そういう中に主はどのようにに生き働いてくださるのでしょうか。

## 一、主は状況を支配しておられる

イエス様は、三年半の働きの中で、エルサレムに上る時には、必ず彼らの家を宿にされたようです。やがてこの家族に不幸が襲いますが、それを見越した上でなお「イエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた」。順調な時もピンチの時も、主は私たちを愛しておられるということに変わりはありません。私たちの祈りを聞いたり聞かなかつたりすることもあります。しかも「あなたの愛しておられる者が病気をしています」と、私たちも自分のこと、ほかの人のことのために祈ることが許されています。

そこにラザロが危篤であるという知らせが入ります。いつものイエス様ならすぐに行動を起こすはずですが、

この時ばかりはなぜか出発を遅らせています。15節によれば、主はラザロが死ぬのを待つてさえたことがわかります。その心は「それは、あなたがたが（弟子たち）信じるようになるため」、（それは神の栄光のため、また、神の子がそれによつて栄光を受けるため）というのです。マルタとマリヤはイエス様が出遅れた理由を知りません。イエス様には彼らの及ばぬお考え、ご計画がありました。私たちがピンチの時やことがうまく運ばない時、何の動きも見られないときでも、イエス様のほうでは着々と事を進めておられることを知るべきです。そういうピンチを逆手にとつて、ご自身の栄光が現れるようにして下さいます。今、あなたにとつて思うようにいかないう事態はどんなことですか。そこにも主のおられることを見ることが出来ますか。

## 二、主は不可能を可能にされる

主は「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」と言われましたが、死人が甦よみがえるといふことは、ほんらい人間には信じることができません。そういう事実<sup>事実</sup>に直接出会ったことがありません。しかしイエス様はその不可能を可能にし

てしまわれました。死んで四日も経つラザロを墓の中から甦らせたのです。主ご自身も死んで三日目に墓の中から甦られました。そしてイエス様とつながっている人も、その命によって甦ることができず。からだは灰になっても、霊は天において永遠に生きるのです。主の再臨の朝、今度は栄光のからだを与えられます。(生きていてわたしを信じる者は、いつまでも死なない)、そのとき生きているクリスチャンは死なないで天に挙げられます。いま現在のは、やがて復活する「永遠の命」(10・28)を持って生きているのです。

マルタの信仰は見事です。(あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さることを、わたしは今でも存じています)と告白しました。イエス様もつと早く来て下さったならラザロが死ぬことはなかったと言いつつも、イエス様には何事かをする力があると信じています。これはさかのぼること千五百年も前に、アブラハムが一人息子のイサクをいけにえとして献げようとしたとき、アブラハムが抱いた信仰に通じます。神の命令によってイサクをいけにえにしても、神はどのような形かわからないが、元通りにして帰してくださいという

信仰がありました。

これに対して主はきつぱりと(あなたの兄弟はよみがえるであろう)と断言します。彼女はラザロが終りの日、つまりこの世の終りに復活することは信じていました。これも確かな信仰ですが、彼女はさらに信仰を大きくされることになります。終末という遠い未来ではなく、これからまもなくラザロが甦るのを見ることになるのです。彼女は主が生も死も支配し、不可能を可能にされるのを体験することになります。

復活の信仰とは、神が不可能を可能にしてくださいとを受け取るものです。目に見える望みは望みではありません。きょうイエス様は私たちに、不可能を可能にすることを(信じるか)と尋ねておられます。それに対して私たちはマルタのように(主よ、信じます)と答えるでしょうか。

### 結論

今しばらく静まって、自分の切なる願いは何かを探ってみましょう。そしてその実現が不可能に思えるならば、復活の信仰を下さいと求めましょう。主は生きておられますから、それをお与え下さいます。

## 研究資料

(中島啓一)

「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、…よみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」(5・28～29)。ラザロのよみがえりは、この終わりの日に起こる出来事の<sup>まえあじ</sup>前味、あるいは生きた「たとえ」と理解して良いだろう。神は終わりの日に、墓の中にいる者たちをよみがえらせるだけでなく、今、「神の子の声」を聞く者にも、よみがえりの命をお与えになるのである。

## テキスト

17 イエスが行ってごらんになると、ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた。知らせを受けた場所からベタニヤまで一日かかる距離があつたようであるから、姉たちがイエスに使いを送った日に、ラザロは死んで埋葬されていたことになる。イエスはそのことを「存じで」、「ラザロが病気であることを聞いてから、なおふつか」(6)の間、その死が確実になるまでご自身の「時」(2・4、7・6)を待つておられたのである。当時一般には、死者の魂は死後3日を過ぎてから、永遠に墓を去ると考えられていた。そのことから、この4日という日数は、

ラザロの死が、人々にとつてもはや動かしようのない事実であることを示している。

19 大ぜいのユダヤ人が…慰めようとしてきていた。ユダヤでは、埋葬から一週間にわたって、遺族が深い悲しみの日々を過ごし、人々の弔問を受ける。この慣習は〔ヘシバー(七の意)と呼ばれ、今日も行われている〕ようである。その最初の三日間は泣く日で、イエスがベタニヤに着かれたのは、その泣く日が終わった時であつた。

20 マルタはイエスがこられたと聞いて、出迎えに行つたが、マリヤは家ですわっていた。ルカ10・38～42に描かれているように、行動的なマルタと内省的なマリヤという二人の性格の違いがここにも見られる。

21～22 主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。「なぜもつと早く来てくださらなかつたのですか」という恨み言に聞こえるが、それだけでなく、「あなたがおられたら弟は必ず助かつたでしょう」という、イエスに対する信仰も含まれている表現。それゆえ、あなたがどんなことをお願いになつても、神はかなえて下さる」と続くのである。

23～24 あなたの兄弟はよみがえるであらう。イエス

は、これからすぐに起こる肉体のよみがえりにについておっしゃったのであるが、マルタは、終わりの日のこととしか受け止めることができなかった。当時のユダヤ教では、終わりの日のからだのよみがえりが一般に信じられていた（ちなみにパリサイ人はそのことを信じ、復活を信じないサドカイ人と対立していた）。しかしその信仰は、愛する者を失った悲しみの現実を取り去り、それを喜びに変えるには、あまりにも無力な信仰であった。このときのマルタを支配していたのは、究極の現実であるかのようにのしかかる死の重みだったのである。

**25〜26 わたしはよみがえりであり、命である** イエスは、マルタの信仰を再教育し、その不明確な信仰に喝を入れるように、こうおっしゃった。すなわち、死者をよみがえらせ、命を与えるお方は、ご自身が「よみがえり」と「命」そのものであると宣言されたのである。それはイエスが「永遠の命に至る朽ちない食物」（6・27）を与えると言われた後に、「わたしが命のパンである」（6・35）と宣言されたのと似ている。マルタに求められたのは、イエスご自身を「よみがえり」また「命」と信じる信仰であって、そのように信じる者は、終わりの日

のよみがえりにについて確信が与えられるだけでなく、今ここで永遠の命を経験することができるのである。たと**い死んでも生きる** 信じる者がイエスと結び合わされているなら、肉体の死を経験しても、イエスのよみがえりにあずかることができる。**いつまでも死なない** 「わたしの言葉を守るならば、その人はいつまでも死を見ることとがない」（8・51）ともある。肉体の命には必ず終わりが訪れるが、命そのものであるお方につながった命は、いつまでも続くのである。イエスを信じる者にとって、肉体の死は、すべての終わりではなく、永遠の命の始まりなのである。**あなたはこれを信じるか** この問いかけが、マルタのすばらしい信仰告白を引き出した。

**27 あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております** マルタは、イエスの言葉を理解できたわけではなかったが、イエスの言葉を受け入れ、真心からの信仰を告白することができたのである。

**参考図書** 注解書 G. R. Beasley-Murray (Word), F. F. Bruce (Eerdmans), B. Lindars (New Century Bible), 村瀬俊夫（新聖書注解 新約1）。その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

## 聖書

ヨハネ11・17～27

## タイトル

命なるキリスト

## 暗唱聖句

わたしはよみがえりであり、命である。

わたしを信じる者は、たとひ死んでも生

きる。

ヨハネ11・25

## 目標

永遠の命の与え主キリストを信じ、永遠の命の希望に生きる。

## 導入

(土屋開夫)

突然ですが、「みなさん、イエス様を信じていますか？」そう聞けば、きっとここにいる全員が「信じてます！」と答えてくれるでしょう。じゃあもう一度、聞きます、「どれくらいイエス様を信じていますか？」

そう、ひと口に「イエス様を信じます」と言っても、どれくらい信じているかは、一人一人違うと思います。少しでも信じているのか、百パーセント信じているのか。イエス様のみ言葉の一つだけ信じているのか、全部を信じているのか。水たまりのように浅く信じているのか、海のように深く信じているのか。

イエス様は今日の場面で、「どれくらい、わたしを信じ

ているのか？」「本当にわたしを信じているのか？」と問にかけておられるのです。

## 死んでしまったラザロ

ベタニヤという村にマルタとマリヤ、そして弟のラザロという三人姉弟きょうだいがいました。イエス様はこの姉弟の家を何度も訪ね、み言葉を語られました。ですから、彼らはイエス様を救い主であると、素直に信じていました。ある時、その弟のラザロが重い病氣にかかり、死にかかっていました。そこで姉のマルタはその事を人を通じてイエス様に知らせました。色んな病氣の人を癒いされたイエス様が来て下されば、ラザロは癒されると信じていたからです。

けれども、イエス様が来られた時にはもうラザロは死んでお墓に葬られ、四日も経っていました。マルタはイエス様を迎えて言いました、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」(21)。つまり言い換えると「ラザロがまだ生きていた内にイエス様が来てくださったなら、どんな病氣も癒やされたでしょう。でも、もう死んでしまったので、イ



イエス様、手遅れでした。あなたが来られたのが遅すぎました」というガツカリの気持ちでしょう。

けれども、果たしてイエス様に「手遅れ」という事があるのでしょうか？ 私たちのお祈りに答えて下さる時、「遅れてしまった」という事があるでしょうか？ 勿論、そんな事ある筈はありませんね！

### 今、イエス様を信じますか

そんなマルタにイエス様は「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と言われました。マルタは「終りの日」、つまり、やがてこの世が終わり、新しく神の国が造られる時にはよみがえる、という事を信じていました。その信仰は正しいのですが、イエス様のよみがえりの力を、何か遠い遠いまだまだ先の事の様に思っていたかも知れません。

私たちもそのような事ありませんか？ 教会学校で聖書のお話を聞いても、今の自分とは関係のない、遠い昔話のように思ったり、天国のみ言葉を聞いても遠い未来の話のように思ったり。でもイエス様は今、今日、力のある方なのです！

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」とイエス様は問われました。マルタさんは「主よ、信じます」と答えましたが、心の底からは信じていなかったのでしょうか。それは信仰深い妹のマリヤでも同じでした。

イエス様はそれによみがえりの力を信じきれない人々を見て心が激しく震え、イエス様のよみがえりの力が現実の実際の力である事を見せるため、お墓に葬られていたラザロを生き返らせられました。

### まとめ

イエス様の奇跡はいつもイエス様の救いの力を教えるためでした。人はみな死にます。しかし今日、イエス様を救い主と信じているなら、いつかこの体は死んでも、魂は決して死なないのです。救い主イエス様のよみがえりの力を今、信じますか？

♪主のちからを♪ (PW25、イン71)

# 聖書 ヨハネ14・1～6 テーマ 道なるキリスト

## 序論

(福井文彦)

13章から17章は、イエスが十字架にかかられる前になされた最後の語りかけである。これは普通、弟子たちへの「告別説教」と呼ばれるものである。この14章においては、天国と聖霊についての説き明かしがなされているが、どちらもキリスト教信仰の根幹にかかわる重要な部分である。それは、弟子たちの不安と恐れに対して、彼らを励まし力づけ、信仰を保たせるためであった。

## 一、心を騒がすな

その時、イエスに対するユダヤ人(特に指導者たち)の反感と敵意、憎悪の念が殺意にまで達していた(5・18、11・53)。そのためイエスの弟子たちも心が騒ぎ、重苦しい不安と恐れの中にあった。

しかも彼らは、仲間の弟子の中から主を裏切る者が出ることを、イエスから聞かされた(13・21)。さらには、ペテロの失態の予告(13・36～38)と、師と仰ぎつつ従ってきたイエスご自身が、彼らのもとを去って行かれるこ

とも聞かされたのである(13・33)。

これらのため弟子たちはショックを受け、動揺し、不安、心配、恐れのために、心が騒いでいた。そのような彼らに対して、主は「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい」と言われ、慰めと励ましを与えられた。

心を騒がせ、動揺することは失敗、敗北への第一歩である。そのことから守られ、不安と恐れからの救いとそれに勝利するために、神を信じ、イエスを信じることを勧められたのである。

## 二、天国について

イエスが弟子たちから去って行くことは、実は彼らのためであった。イエスは、弟子たちが神と共にいつまでも住み、神を永遠に喜ぶことのできる道を開くために去って行かれるのである(2)。

イエスはまず天国を「わたしの父の家」と表現された。天国、それは神の家であり、そこには神の臨在があり、神こそがその所有者、その支配者である。神の臨在、その監督のもとに、神のみ心が常に完全な形で遂行される、これが「わたしの父の家」と表現された天国である。

続いてイエスは天国は〈すまい〉であると言われた。〈すまい〉には「モナイ」というギリシャ語が使われ、生活する場所を意味する。そこは一日の労苦から解放され、十分な休息、くつろぎ、安らぎを得ながら、生活するところである。すなわち、天国は一切の労苦から私たちを解放し、満ち満ちた休息、憩いを提供するところである。

イエスは、天国が〈あなたがたのため〉であり、〈場所を用意しに行く〉と言われたように、私たちのための場所であり、イエスによって備えられる場所であると教えられる。そこは地上のような主との別離は全くないところで、私たちをそこに迎え入れるためにイエスが再びこの地上に來られるのである。

### 三、天国への道

そこで、イエスは弟子たちに〈わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている〉と言われた。主はどういうお方で、これからどういうことをしようとしているのか、繰り返し教えておられたからである。十字架にかかって死に、3日目に復活して、天に歸られる。そして天に歸られたら、弟子たちのためにそのすまいを

用意して、また迎えに來るということである。

しかし、これを聞いたトマスは、よく理解できず、〈主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません〉と質問をした。すると、イエスは〈わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない〉と答えられた。イエスはご自分のみが、一切の解決者であり、救い主であることを、父のみもと（天国）への唯一の道であると宣言されたのである。

人類は罪のために真理を見失って、永遠の滅びに至る人生を歩んでいる。罪人は、イエスを通してでなければ、だれ一人、父なる神のみもと（天国）に行くことができないのである。

### 結論

イエスは心騒がせ、動揺し、不安と恐れの中にある弟子たちに、天国で主と共に住むという希望と喜びを説き明かされた。さらに、その準備が完了した時に彼らを迎えに來ると約束された（3）。このイエスの約束は、弟子たちに大きな希望と勇気を与え、彼らを大胆な信仰者へと変えていったのである。

## 研究資料

(宮澤清志)

週題として「道なるキリスト」というテーマが与えられている。そして目標として「天国への道であるキリストを信じる」とある。信仰者として、キリストが「道」であるという時、それは様々な黙想できる言葉である。しかし同時に教会学校でみ言葉を語る者として、キリストが「道」であるという時、まずはこの目標を心にとめておきたい。幼子を前にして、説教者として伝えたいことは山ほどある。しかし、まずはこの目標に立つて語り、思いめぐらすことが求められる。

## テキスト

1 あなたがたは、心を騒がせないがよい 「心を騒がせる」という言葉は、直訳すれば、心がかき乱されるということである。「騒がせる」というギリシャ語は、他の個所では「不安になる」「惑わす」「おびえる」「うろたえる」等、様々な訳される。

しかし、弟子たちは、なぜ「心を騒がせて」いるのだろうか。弟子たちの身に置き換えて思いを巡らしてみること、また私たちに必要とすることは必要とすることである。ある

注解者は、差し迫ったイエスの死が、弟子たちの心に大きな不安と動揺をもたらせたのではないかと語る。すなわち師との決別である。しかし別の注解者はそれよりもイエスの死を彼の敗北の結果ととらえたために、それが彼らに挫折感を与えたゆえではないかと述べる。神を信じ、またわたしを信じなさい 神を信じるということは、何か超越的な存在として心の中の神の姿に手を合わせることはなく、この後十字架にかかって死なれ、よみがえられた主イエス・キリストを信じることである。同時にこの宣言は、神に対する信仰とイエスに対する信仰とを同列におく、極めて重要な意味を持つ宣言である。

2 すまい 「マンション(大豪邸)」「(NIV)」。主が私たちのために天にて備えられる住まいは、大豪邸であり、その大豪邸を備えに行くことがキリスト昇天の目的の一つである。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから イエスの死にどのような積極的な意味があるのかを示す重要な意味を持つ言葉である。イエスの十字架の死とは、地的にはイエスの無惨な敗北の死である。しかし天的にはイエスは父なる神の御許にお帰りになり、そこで彼を信じる人々を迎え入れるための準備をなさる

のである。

3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう この個所は、多くの解釈ではキリストの再臨を指すものと考えられる。しかし、18節との関連から、後の聖霊降臨を指す解釈も可能であるし、また現在私たちとともに住まわれるという理解にも立つことができる(23)。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである わたしのおる所とは、天国のことである。天国とは、神の恵みの支配を指す言葉である。それゆえ天国とは、単純に死後の世界のことではなく、現在神の恵みの支配のただ中にあることである。

4 イエスはかつて弟子たちに「今しばらくの間、わたしはあなたがたと一緒にいて、それから、わたしをおつかわしになったかたのみもとに行く」(7・33)と語られた。そればかりでなく、主は弟子たちに繰り返してご自分はどこへ行かれるかを語ってきた。しかし、弟子たちはついに理解することができなかったのである。

5 道 トマスはこの言葉を、ある場所を指す言葉として理解したのであろう。

6 わたしは道であり、真理であり、命である 前節に

おいて「道」を物理的・空間的に理解したトマスに対して、主イエスこそが父の家に達する道であり、ご自身の十字架の贖いと仲保において、神の命にあずかる道を開いてくださったことを示す。そして、自らが「真理」であるとは、イエスご自身が神について、また神と人についての「真理」そのものであり、すべての知識の源は、主を知ることであることを示す。そして、自らが「命」であるとは、イエスご自身がすべての命の根であり、永遠の命の与え主であることを示す。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない 主は私たちの天の父に至る唯一の道なのである。キリストを拒絶する時、人はすべてを失う。しかし「父のみもとに行くこと」は、ただ終わりの時のことではない。今この人生において、親密な関係のもとで平安と慰めを得るために父の御許へ行く道でもある。

#### 参考図書

B・F・バックストン「ヨハネ傳講義」(バックストン記念靈交会)、高橋三郎「ヨハネ伝講義」(待晨堂)他

## 聖書

ヨハネ14・1～6

## タイトル

道なるキリスト

## 暗唱聖句

わたしは道であり、真理であり、命である。  
ヨハネ14・6

## 目標

天国への道であるキリストを信じる。

## 導入

(和田 治)

パンパカーン！ さあ、マラソン大会、いよいよスタートです。ヨーイ、ドン！ 「ねえねえ」「ん？」「あのさあ、このマラソン、どこに向かってどう走ればいいの？ コースは？ ゴールはどこ？」「あれれ、そう言えばどこだっけ？」なくんてこと、ありませんよね。私たちの人生は、一回限りの大切なマラソンみたいなもの。コースとゴールがはっきり分からないのに、走れませんよね。大丈夫！ イエス様がちゃんと教えてくださっていますよ。

## 「心配しなくて大丈夫」

(こわいな～、しんぱいだな～、どうなっちゃうんだろう…) って、心がざわざわすること、ありませんか？ イエスさまの弟子たちの心は、今、心配や恐れでいっぱいです。だって、大好きなイエスさまが、もうすぐい

なくなっちゃうって言うんですから。しかも、十字架にかかって死んでしまうなんて！ でも、イエスさまはおっしゃいましたよ。「あなたがたは、心を騒がせないがよい」。そう、心配しなくて大丈夫！ 父なる神さまを信じなさい。そして、わたしを信じるのです、と。だって、イエスさまが死んじゃうのは、それで全てが終わってしまうのではなく、弟子たちにとって、そして私たちにとっても、すばらしい祝福なのですから。

## 「わたしの父の家、あなたがたのために」

実はね、イエスさまが十字架で死なれるのは、死を打ち破ってよみがえり、罪の力を碎き、そして、父なる神さまのもとにお歸りになり、やがて、イエスさまを救い主として信じる全ての人々を天国に迎えてくださるためなのです。イエスさまは天国を「わたしの父の家」とおっしゃいました。父なる神さまの大きな愛が満ち溢れるところ、もう、心配なことや、嫌な事、不安なこと、けがや病氣もいっさいない、やがて死んじやうっていう恐怖もない、本当の平安に満ち溢れた最高の場所です！ そこに私たちのために準備してくださる住まいは、小さなお家でしょうか？ それでもうれしきよね。でも実は大

豪邸、つまり、チヨー大きなひろ～いお家なんですって！  
 やったー！ 弟子たちの目もきらきら輝いたかな？ う  
 ん、聖書を読むと、弟子たちはびんと来なかったみた  
 い…。

### 「わたしが道」

そこで、イエスさまはおっしゃいました。「わたしは  
 道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによ  
 らないでは、父のみもとに行くことはできない」。そう  
 です、イエスさまだけが父のみもとにつながるたった一  
 本の道なのです。本当なら、罪のために天国へは行けな  
 いで滅びるはずの私たちですが、イエスさまを信じさえ  
 していれば、全ての罪は赦<sup>ゆる</sup>され、天国に行けるのですね。  
 つまり、イエス様っていう確かなコースを、天国ってい  
 う確かなゴール目指して生きるのです！ しかも、天  
 国って、死んでしまってからしか行けない場所なのでは  
 ありません。イエス様が道だってことは、いつでもイエ  
 ス様がいつしよ、いつも天国なのです！ イエスさまを  
 信じるあなたの心の中が、もう天国なのです。

### 例話

アフリカ旅行でジャングルに奥深く入って行った人の

お話です。彼が雇ったガイドは先に立って、背の高い草  
 を倒しながら進んでいます。あんまりにも暑くて疲れて  
 へとへと。いらいらしてガイドに訊ねました。「ここは  
 どこなんだ？ 私をどこへ連れて行こうとしているのか、  
 ちゃんと分かっているだろうね？ いったい、どこに道  
 があるんだ？」ベテランのガイドは足を止め、振り返っ  
 て言いました。「私が道です」。私たちも、時々同じよう  
 な質問を神さまにしちゃうかも。「神さま、どうなっ  
 ちゃってんの？ほんとにあなたに従っていて大丈夫で  
 しょうか？」そんな不安なときや怖いとき、思い出しま  
 しょう。イエスさまが道です！ イエス様についていけ  
 ば、ぜったいの絶対に大丈夫！

### 結び

イエスさまを信じているのに、天国のこと、あんまり  
 わかんなかった、というお友だち…。あなたは天国に向  
 かってまっすぐ進んでいます、イエスさまといっしょ  
 に！ だから、心が不安や心配であふれそうになっても  
 大丈夫。天国の希望をしっかりと持ってイエスさまに祈  
 る。心は天国の喜びであふれますよ！

♪ワン・ウェイ♪ (GS 10)



# 聖書 ヨハネ15・1～8 テーマ ぶどうの木キリスト

序論

(小泉 創)

現代では、いつもつながっているということが当たり前になってきました。インターネットも常時接続していますし、LINEやフェイスブックを通して家族や友人といつでもつながることができます。つながって、より便利に、より親しくなりたいのです。

それでは、主イエスと私たちとは十分につながっているでしょうか。

## 一、つながっていないさう

主イエスが十字架におかかりになる前の晩に、弟子たちに語られたのは、ご自分がまことのぶどうの木、父なる神は農夫、そしてイエスを信じる弟子たち、つまり私たちは、ぶどうの木の枝というたとえです。木から離れた枝にはいのちがありません。主イエスは「わたしにつながっていないさい」と、弟子たちに命じられました。一度主を信じさえすれば、あとは何もしなくても大丈夫と

いうことではありません。イエスに対する信仰(信頼)を持ち続ける必要があります。教会に來た時だけ、クリスチャンと一緒にいる時だけ、聖書を読んでいる時だけ、祈っている時だけのことはありません。家庭でも、学校でも、職場でも、クリスチャン同士でない人間関係の中でも、いつでもどこでもかわらずにです。主イエスは、「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていないよう」と約束してくださいました。私たちがつながろうとするとき、主の方からも私たちと力強くつながってくださいなのです。

## 二、実を結ぶ

ぶどうの木にはぶどうがなります。みかんの木にはみかん、りんごの木にはりんごがなります。キリストが木で、弟子である私たちがつながっているなら、そこには何があるでしょうか。きっとキリストの弟子にふさわしい実がなるはずです。それはたとえば「義の実」(ピリピ1・11)、「福音宣教の働きの実」(コロサイ1・5～10)、「御霊の実」(ガラテヤ5・22～23)等です。

本来、外に投げ捨てられて枯れてしまうはずだった私

たちを、主イエスは救い出してくださいました。尊い代価を払って、滅びの中から買い取られた私たちは、主イエスにつながって実を結ぶ生涯をスタートしたのです。今までこの生涯を歩んでこられたあなたに、主はどのような実を結ばせてくださったでしょうか。感謝をおさげいたしましょう。そしてこれからどのような実を結ばせようとしておられるのでしょうか。主に大いに期待いたしましょう。

### 三、栄光のために

ひよっとしたら、いつでもどこでもへわたしにつながっていないさい」と言われるのは、窮屈に思うときもあるかもしれませんが。かつては思うがままに自己実現、自分の夢を追求めてきた私たちです。しかし、そのような生き方は私たちにどのようなものをもたらしたことでしよう。手に入られなかったときには失望を味わい、ひとをうらやんだり、逆に手に入れたのは高ぶり人を見下げ、それでもなお満ち足りない思いに襲われたりしたのではなかったでしょうか。

ここに農夫のように愛情をもって、二十四時間世話を

してくださる父なる神がいっぱしゃいます。本来ならば何一つできなかった私に、豊かな実を結ばせてくださるという祝福をいただきました。(なんでも望むものを求めるがよい)とまで言っていただけとは、何と素晴らしいことでしょう。そして私たち自身がほめられ満足するのではなく、神に栄光がさげられるのです。主イエスは、(あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば)とおっしゃいました。主の言葉が私たちの内にとどまっていることが大切なのです。そのみ言葉はどのようなときも私たちを生かし、キリストにふさわしく整えてくださいます。

### 結論

私たちとつながることを喜んでくださる主に、いつでも、どこでもつながっていきましょう。そして主の助けによつて実を結び、栄光をささげる生涯を歩ませていただきます。

## 研究資料

(辻林和己)

ヨハネ15章は、「最後の晩餐」(13・1～30)の後、主イエスが弟子たちになされた説教の一部が記されている。今回の個所はヨハネ福音書の特徴をなす「わたしは…である」(ギ)エゴ・エイミ)の形式の七番目の語句が語られている。主イエスが弟子たちの内におり、彼らが主イエスの内におろことはヨハネ14・20で既に述べられたが、ここではそのことがぶどうの木と枝との関係にたとえられている。

## テキスト

1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である 「ぶどうの木」はイスラエルの民の象徴である。

詩篇80・8で詩人は、神が民をエジプトの地から約束の地カナンへと導き出して下さったことを回想している。イザヤ5・3～7は、イスラエルが神の願いに反して悪しきぶどうの実を結んでしまったことを告げる。しかし、主イエスは「わたしは(このわたしこそ)まことのぶどうの木」であると語られた。「まことの」の原語(ギ)

アレクサイノス)は、ここでは模型に対する実物を指す意味で用いられている。主イエスこそ神の約束を真実に実現されるお方である。ここでは「わたしは…である」に「わたしの父は農夫である」という言葉が付加されている。主は、父なる神を農夫にたとえられた。

2 父がすべてこれをとりぞき 「とりぞく」(ギ)スブラギゾー)を「(ぶどうの木の枝を)剪定する」と解釈すれば、6節の最後の「さばき」を宣言する言葉と呼応している。これとは逆に原語には「支える」という意味もあり、父なる神が実を結ばない枝を支え、持ち上げてより多くの空気と光に触れさせて下さると肯定的に解釈する説もある。当時のユダヤの国のぶどうは現在の日本のもので違い、地に這わせていた。これをきれいにする 「きれいにする」(ギ)カサリゾー)。イヨハネ1・9の「きよめる」も原語は同じ言葉が用いられている。

3 わたしが語った言葉 これまでに主イエスが弟子たちに語り続けて来られた言葉。既にきよくされている「きよい」の原語は形容詞(ギ)カサロス)。2節の動詞(ギ)カサリゾー)との関連でこの言葉が用いられている。

4 わたしにつながっていないさ 「つながる」は(ギ)

メノ」で「とどまる」「宿る」等の意味も持つ。新改訳では「わたしにとどまりなさい」と訳されている。私たちがしっかりと留まるべき場、それはまことのぶどうの木なる主イエスである。この勧めは、わたしに対する信仰（信頼）を持ち続けなさいという主のご命令であり、呼びかけである。枝が幹から流れてくる樹液によって伸び、成長するように、私たちキリスト者は主イエスを通して、神の愛とみ言葉をいただいて生きる者である。

**5 その人は実を豊かに結ぶようになる** 新約聖書で語られている「実」は、「義の実」（ピリピ1・11）、「福音宣教の働きの実」（コロサイ1・5～10）、「御霊の実」（ガラテヤ5・22～23）等。弟子が自分の努力で実を結ぶのではない。実を結ばせて下さるのは主イエス。

**6 投げ捨てられ、焼かれてしまう枝は、主を裏切るイスカリオテのユダや主イエスを受けない祭司長、律法学者たちの将来を暗示している。**

**7 なんでも望むものを求めるがよい** 「求める」とは父なる神に祈り求めること。主イエスを信じ、聖霊による主の内住の恵みをいただいたキリスト者（ガラテヤ2・20、4・6、コロサイ1・27等）の祈りは、神の右

に座しておられる主イエスご自身のとりなしの祈りと共に父なる神のもとに届けられる。

**8 わたしの弟子となるならば** 原文では「なる」（ギノマイ）の不定過去接続法が用いられている。主イエスの「弟子である」という状態を表わす言葉ではなく「弟子となる」と、より能動的、積極的な意味が込められた言葉が用いられている。キリスト者は、常に主の「弟子となる」、「弟子となりつつある」存在である。**わたしの父は栄光をお受けになるであらう** 主イエスに従う者がみ言葉によって主イエスにしっかりとつながり、多くの実を結ぶとき、栄光をお受けになるのは、父なる神である。弟子たちを通して顕されるキリストのみわざの輝きは、父なる神の栄光に他ならない。

**参考図書** 船本弘毅「ヨハネの福音書」『説教者のための聖書講解』（日本基督教団出版局）、村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書注解』（いのちのことば社）、他

聖書 ヨハネ15・1～8

タイトル つながってる？

暗唱聖句 わたしはぶどうの木、あなたがたはその

枝である。 ヨハネ15・5

目標 キリストにつながり、実を結ぶ者となる。

## 導入

(後藤 真)

ぶどうはとてもおいしい果物ですね。甘くて、汁がたっぷりのぶどうは何個でも食べたくります。ぶどうが甘くておいしい実を結ぶために、とても大切なことがあるのです。その秘密は何でしょうか。

## ぶどうの木

イエス様は弟子たちに言いました。

「わたしはまことのぶどうの木、父（神様）はぶどうの世話をする農夫なんだよ。」

イエス様が住んでいたイスラエルには、ぶどうの木がたくさんありました。弟子たちはすぐに、実をたくさんらせるために、いっしょうけんめいぶどうの世話をしている農夫の姿を思い浮かべました。農夫である神様が実を結ばせようとお世話をしてくださる。自分たちがそ

んなに大切にされていると思うとても嬉しい気持ちになります。

イエス様は続けて言いました。

「枝がぶどうの木につながっていないければ自分だけでは実を結ぶことができないでしょう。」

「そんなの当たり前だ。切った枝にぶどうの実がなった話なんか聞いたことないぞ。」と、弟子たちは心の中でつぶやいたかもしれません。イエス様はそんな弟子たちの顔を見渡して言いました。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝です。わたしにつながっていないさい。そうしないと、あなたがたは自分で実を結ぶことはできません。でも、わたしにつながっていれば、その人は実を豊かに結ぶようになります。わたしから離れては何もできませんよ。」

弟子たちはきくと、イエス様につながっていたい、実を結びたいと思ったでしょう。わたしたちはどうでしょうか。

## つながっている。

ところで「つながっている」というのはどういうことでしょうか。みんなで手をつないでいるのがつながって

いるということでしょうか。学校で同じクラスになり、仲良くなったらつながっているということでしょうか。それもつながっていると言えるかもしれません。でも、ぶどうの木と枝がつながっているというのは、そういうこととは大きく違います。手をつないでいても、離れてしまったつながらなくなってしまいます。同じクラスで仲良くなった友だちも、別のクラスになったらあまり遊ばなくなってしまうかもしれません。

けれども、ぶどうの木と枝はのちがつながっています。ぶどうの木から水や栄養が枝に送られてきます。枝は、木がなければ生きていきません。木から栄養が送られてこなければ実を結ぶこともできません。木から切り離された枝は枯れてしまうのです。

イエス様につながっているというのは、イエス様といのちがつながっているということです。ただイエス様のことを知っているだけではありません。ただ、教会に行っているだけでもありません。イエス様を通して永遠のいのちをいただいているということです。また、イエス様を通して神の子とされているということです。

イエス様につながっているなら、イエス様からいつも

栄養をいただくことができます。イエス様のことは、聖書のことばが、心に響いてきて、イエス様を喜ばせようと思えるようになります。すぐに怒る人が優しくなったり、わがままだったのに人のことを考えられるようになったりします。そして友だちに、この素晴らしいイエス様を教えたくなくなってきます。そういうすばらしい実をたくさん結んでゆくのです。みなさんはイエス様といのちがつながっていますか？

### あなたがたは枝

イエス様は「あなた方はその枝です」と言いました。イエス様はこのことを、だれかひとりだけではなく、弟子たちみんなに話しました。ペテロだけが枝とか、ヨハネだけが枝とかいうわけではありません。ぶどうの木は、一本の木にたくさん枝が生えて長く伸び、たくさんの実を結ぶのです。

イエス様の願いは、わたしたちみんながイエス様につながり、実を結ぶことです。みんながイエス様につながりましょう。そしてイエス様につながっている枝どうし、愛し合い、実を結ばせていただきますように！

♪主はぶどうの木♪（リビングプレイズ17）

# 聖書 マタイ16・13〜20 テーマ キリストへの信仰告白

## 序論

(金井信生)

イエスが弟子たちに尋ねられた「あなたがたはわたしをだれと言うか」との問いかけに、ペテロが代表して「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と答えました。この答えは主イエスを満足させる答えでした。ペテロの答えは、今も主イエスを信じ救いに入る信仰告白そのものであり、ここからクリスチャンの信仰の歩みが始まっています。

## 一、キリストに土台する

これまですでに、弟子たちは仕事も家族も捨ててイエスに従ってきました。イエスをキリスト（救い主）と信じていたからです。しかし、このペテロの答えは、ただイエスが救い主であるというだけでなく、「生ける神」すなわち天地創造のまことの神であると告白しています。人間の中から立ちあがっていく救世主ではなく、天からくだってこられたお方だと言いつづけているのです。

ローマの支配下にあった当時、イエスを政治的な救世主と期待する人たちもいました。これは自分の願いに救世主をあてはめようとする、きわめて利己的な考えでした。しかし、クリスチャンであっても、同じ過ちを犯す危険があります。

ペテロの言葉は事実の承認としての信仰告白です。イエスが神の子であり、私たちは人間に過ぎないことを認め、このお方の導かれるところ、命じられることに従うことを言い表わし、天からの命に生かされることを信じ受け入れる言葉です。

「信仰を告白する」といいますが、私たちが何かを見いだしたり、つかんだ結果ではなく、確かな土台、ゆるがない中心は、向こう側、すなわち神の側にあるのです。キリストが木であり、私たちは枝です。自分の立場や生き方を変えず信仰を飾りにする、というのではなく、私たちがキリストに接ぎ木されることです。そこに信仰告白から生まれる力があり、命があります。

飛行機が離陸するために必要な距離は、天候や機種など状況によって異なりますが、飛び立つ瞬間があるはずで、信仰の生涯も、何となく聖書を学び、イエスをぼん



やりと神だと思っているところから、「イエスは私の救い主です。このお方に結びついて生きます」と決心し、告白してスタートすると、主の守りと導きが確かなものとなっていきます。

## 二、教会の交わりの中で

弟子たちが集まる中で「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白することは、私たちの集まる中に、私たちとは違う方がおられるということです。同じ人間ならば、誰が**いちばん偉い**かと争うこともあるでしょうが、主を目の前にして、しかも主が誰よりも謙遜けんそんになつてくださっている前で、もはや争うことはできません。

イエスはペテロの信仰告白に対して、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」と答えられました。この〈岩〉（ペトラ）とは、ペテロが代表して言い表わした信仰告白です。個人的に主に申し上げるだけでなく、様々な違いを持つ人間が一つに集まって、同じ主を仰ぐ交わりの中で告白する現実の中に生きることです。

主が自分を愛し、赦し、受け入れてくださっているその恵みに感謝しながら、人をさばくことはできません。

もしそんなことがあっても、主の御顔を仰ぐ時に、自分の心が碎かれていきます。

教会はただ人が寄り集まっているのではなく、キリストを中心として交わるために、召し集められているのです。すべての人のために来られたキリスト・イエスは、まず一握りの弟子たちを選び、教え導き、イエスを主と信じ告白する者の愛の交わりを広げていくように、身をもって教えられました。

「イエスは私の救い主です」という共通の土台に立つときに教会は揺るぎません。また〈天国のかぎ〉、すなわち天的な権威をもって、神の心を世にあらわしていきます。しかし、この信仰告白から逸れたり、交わりの中に隙すきができると、黄泉よみの力が侵入してきます。

## 結論

同じキリストに接ぎ合わされて豊かに生かされている私たちです。これからもイエスによって共に生かされていることを感謝し、信仰告白そのものや、これに基づく賛美、また日々の交わりをもって、互いに主に結ばれた恵みを表わしていきましょう。

## 研究資料

(井上義実)

有名なペテロの信仰告白の個所となる。ガリラヤや北方での伝道は間もなく終わり、十字架に向かってエルサレムに上られる時が近づく。その前に、イエスは弟子たちとの交わりを十分に持とうとされたのである。

## テキスト

13 ピリポ・カイザリヤ 現在のシリアのバニアスに当たる。ヘロデ大王が、アウグストゥスから割譲され整備し、息子のピリポが、皇帝に敬意を表してカイザリヤと改名した。地中海沿岸のカイザリヤと区別するため、ピリポの名を冠してピリポ・カイザリヤと呼ばれた。人々**は人の子をだれと言っているか** イエスとは誰か、イエスをどう捉えるかとの問いかけである。今日も、人々はイエスについて、それぞれに自分の考え、受け止め方を持っており、私たち全てへの根本的な問いかけと言える。

14 **バプテスマのヨハネ…エリヤ…エレミヤ…預言者のひとり** バプテスマのヨハネは、すでにヘロデの手で殺されている(14:1以下参照)。ヨハネの使信と生き様は、同時代の人々に鮮烈な印象を残した。エリヤは終末まで

に、再び現れるという預言が残されている(マラキ4:5)。エレミヤの再来は聖書には言及がないが、外典には触れられている。ユダヤ的伝統の中で、エレミヤという名が上がっている。預言者のひとりという認識は曖昧で、評価も前者より低いものである。

15 **あなたがたはわたしをだれと言うか** イエスの問いかけは他の人のことではなく、あなた自身はどうなのかと、個人に問いかけられている。

16 **あなたこそ、生ける神の子キリストです** 並行個所となるマルコ(8:27-30)、ルカ(9:18-21)では、ペテロの信仰告白は、「キリスト」とのみ記されている。キリストには、メシヤとしての意味が込められている。生ける神の子という言葉には、イエスの神性が表されている。救い主の使命をこの世の圧政からの解放と見るか、永遠の救いをもたらす魂の救いとするかには大きな違いがある。ペテロの告白は天につながるものである。

17 **血肉ではなく 血肉**(ギリ)サルクス・カイ・ハイマ血と(「と」は接続詞)肉という三語から成っている。神性と対比する人間性を表す言葉で、ヘブル的表現である。人間からではなく、聖霊によって、ペテロはイエスを神

の子と告白した。

18 あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。ペテロ(ギ)ペトロス)切り出された石。岩(ギ)ペトラ) 石ではなく大きな岩の塊を表す。岩の上に教会を建てるとイエスは言われた。この岩とは何かということが歴史上問われてきた。主要な考え方として、岩とは、①ペテロ個人を指す。②ペテロの信仰告白を指す。③イエスの教えを指す(7・24)。④イエス自身を指す。と、四つの考え方がある。ローマカトリック教会は①ペテロ個人ととる。ペテロの監督権が教皇に継承されており、カトリック教会の権威を主張する。カルタゴの主教キプリアヌスによってカトリック統一論として体系化された。プロテスタント教会は②ペテロの信仰告白ととる。ペテロの信仰告白とする最も古い言及は、クリュソストムスに見られる。バークレーは、「岩はただ神のみであるが、教会はペテロと共に始まった。ペテロは教会の基礎と言えよう」と記す。黄泉の力(ギ)プライ・ハデュウ) 新改訳「ハデスの門」が直訳である。黄泉と訳されたように死後の霊が存在する場所である。より懲罰的な意味合いではゲヘナ「地獄」

が用いられる。教会は死と滅びに対して、勝利を持っていることが宣言されている。

19 天国のかぎを授けよう ペテロは聖霊が降<sup>くだ</sup>ったペンテコステの日、エルサレムで復活のイエスを証しする説教を行った。三千人の者がイエスを信じ洗礼を受けた(使徒2章参照)。ペテロは、初代エルサレム教会の働きを進めた。さらにカイザリヤのローマの百卒長コルネリオの家では異邦人が救いを受けた(使徒10章参照)。ペテロが天国のかぎを用いることで、多くの神の業が進められていった。地上でつなぐこと…地上で解くこと…ユダヤ的な伝承において、律法の教師が用いる表現である。あることがらについて、つながれるということは禁じられることを意味する。解くということは許されていることを意味している。ペテロは、天的な権威をイエスからいただいた。ペテロが力を行使するのではない。ペテロが神の御心を地上に正しく示すことが目的である。

20 弟子たちを戒められた 厳格に命じられたという強い意味がある。イエスがキリストであることを証しする時がまだ来ていないゆえである。

参考図書 Leon Morris (Eerdmans) 他

## 聖書

マタイ16・13〜20

## タイトル

イエス様ってどんな方？

あなたこそ、生ける神の子、キリストです。

マタイ16・16

## 目標

イエス・キリストへの正しい信仰を告白する者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、人の名前を覚えるのは得意ですか？ もし、皆さんが他の人から何回も名前を忘れられたり、間違えて呼ばれたりしたらどんな思いがするでしょうか？ 学校の先生や親友、またはお父さんやお母さんのように親しい人から間違えられたらどうでしょう。何か悲しくなりませんか？ 皆さんの名前だけではなく、皆さんのことを正しく知ってもらえないほど辛いことはないと思います。

## 他の人びとの意見

ある時、イエス様は弟子たちに「他の人は、わたしのことを誰だと言っているか」と尋ねられました。イエス

様は、ご自分がどのように人々から理解されているかをお知りになりました。すると弟子たちは「ある人たちは、イエス様のことを、荒野で洗礼をさずけていたヨハネだと言っています」と答えました。そして続けて「また他の人たちは、あなたをエレミヤだとか預言者のひとりだと言っています」と答えました。周りの人たちは、イエス様のことをそれぞれ自分たちの思いで理解していたのです。

今でも、「イエスなんて人が作った作り話だ」とか、「イエスは、歴史的には実際にいた人かも知れないけど、神様じゃない」、「イエスは、人を救うために努力はしたけど、失敗した人だ」という人までいるのです。このような答えは、イエス様を正しく理解する答えではありません。

## ペテロの告白

イエス様は、弟子たちを通して他の人たちの意見を聞きました。その次に、弟子たちに直接「それでは、あなたがわたしをだれだと言うか」と尋ねられたのです。すると、弟子の一人であるペテロが、「あなたこそ、生け

る神の子キリストです」とハッキリと答えました。これは、「イエス様こそ、神様の約束なされた救い主です」と言うことです。これは、ペテロの意見というよりも、イエス様に対するペテロの信仰告白だったのです。

イエス様は、ペテロの信仰告白を聞かれ「あなたはさいわいである」と言われました。イエス様は、ご自分がキリスト(救い主)と告白されて嬉しかったと思います。でも、「わたしを認めてくれて嬉しい」とは言われず、ペテロに「あなたはさいわいである」と言われたのです。イエス様を正しく理解し、イエス様を自分の救い主として告白する人は、本当に幸せな人なのです。

### あなたの告白は？

今朝、イエス様は弟子たちと同じように、皆さんにも「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」と質問されます。皆さんは、どのように答えますか？ 今まで、教会学校に来てイエス様のことをたくさん聞いたかも知れません。では、そのイエス様は、皆さんにとってどんな方でしょうか。

イエス様は本当はおられない作り話でしょうか。それ

とも、イエス様は皆さんを救うために来られた救い主でしょうか。心の中でよく考えてみてください。

皆さんの中でペテロさんのように「イエス様は、神の子キリストです。イエス様は、私の救い主です」と告白できる人は、神様の祝福をいっぱい受けることができます。また、イエス様を救い主と告白する人は、イエス様への「信仰」が与えられている人です。

神様は、皆さんがイエス様を救い主と告白して、幸せになって欲しいと願っておられます。そのために天の金庫に多くの祝福を備えてくださっておられます。イエス様への正しい信仰告白が、神様の祝福が詰まった金庫を開ける鍵となるのです。

### まとめ

是非、イエス様を正しく知って「あなたは私の救い主です」とイエス様を告白しましょう。そうすれば、救い主であるイエス様は、天から多くの祝福をもつて皆さんを幸せにくださいます。最後に質問です。皆さんにとってイエス様は、どんな方ですか？

♪すくいの主イエスに♪ (ホ95、イン37)

# 聖書 ダニエル1・8・16 テーマ 世の汚れに染まらず

## 序論

(高橋頼男)

ユダの王エホヤキムの治世に、バビロン王ネブカデネザルがエルサレムを攻め、神の宮を荒らしました。また、ネブカデネザルは、ユダの高貴な出で、優れて有能な若者たちを、王の下で仕える官吏として登用するため、バビロンに連れて行きました。その中に、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤの四青年がいました。彼らは三年間、バビロンの国を支える官吏として王の保護のもとに養いと訓練を受けることになりました。そのため彼らは改名を余儀なくされ、バビロンの言語、文化、習慣に馴染んでその民の一員となること、すなわち文化的、宗教的同化を求められました。これは、彼らにとって厳しい信仰の闘いを強いることになったのです。

## 一、四青年の信仰

彼らは国が傾き不信仰と反逆によってもはや滅ぶほかない祖国において、ヨシア王の宗教改革や、エレミヤの預言から、少なからず信仰の影響を受け、神を畏れ、純

粋で熱心な信仰を持っていました。しかも、若い（十代の半ば）うちにそのような信仰が育っていたのです。彼らは捕囚の身として異邦の地に連れて行かれ、孤独と屈辱を受けながら、異教国の現実の中にしつかり留まり神の取り扱いを受け、神を仰いで勝利していくのです。

今、どこの教会でも子どもたちや若者たちが少ないことが課題となっていますが、少数でも子どもたちがいることは素晴らしいことです。彼らが不信と汚れ、偶像礼拝が支配する混沌としたこの世にあつて、真に神を畏れる者となり、勇氣と情熱を持つ神のしもべとして育っていくなら、教会には大いなる可能性があります。若い日にみ言葉が打ち込まれ、愛と祈りの育みの中で彼らがしつかりと養われることができるよう教会全体で取り組んでいきたいものです。

## 二、食物で自分を汚させないよう求める

彼らは王の食卓から出る食物で養われていましたが、王の食卓の食物を食べることによって身が汚れることを避けるため（あるいは世俗の雰囲気汚されないように）、水と野菜だけを求めました。世話係の宦官の長は、野菜だけの食物で体が健やかに維持できなければ自分が



王からとがめを受けると心配しましたが、彼らは自分たちに好意を示す宦官の長や家令の立場を理解しつつ、決して妥協しませんでした。そして二週間の期限を設け、野菜だけを食べるにより健康がそこなわれるかどうか、試して欲しいと提案しました。彼らは、このことに関して神が必ず道を開いてくださることを信じました。

彼らはバビロンの異教世界のすべてを拒絶したわけではありません。彼らの名が、偶像の神々にちなむ名に変えられたとき、彼らはそれを受け入れました。それは、決して好ましいことではなかったのですが、彼らがバビロンの異教の世界の中で生きていくために必要なこととしてあえて受け入れたのです。しかし、彼らは王の食卓から出る食物を食べることについては、身が汚れると判断しました。そして、これを拒み、それに代わる方法として水と野菜を食することを申し入れたのでした。

私たちもまた、異教社会にあつて偶像礼拝が当たり前に行われ、宗教文化への同意が当然のように求められませんが、その風習、文化、習慣の本質をよく理解した上で、受け入れるべきものと拒むべきものとを言葉によって精査し、祈りをもって判別すべきでしょう。また、知恵

が与えられ良い解決策が与えられるよう求めましょう。あれが、これが身を汚すかもしれないいつも恐れを抱きながら生活するのではなく、判断したすべてのことについて信仰によって大胆に生きるべきです。

二週間たったとき、彼らは誰よりも血色がよく、健康であることが証明されました。それで、彼らは、王の食卓から下るもので身を汚すことなく、水と野菜を食して生活することができました。

この世で、神の前にきよく生きることは至難のわざです。しかしダニエルは神を現実の生活の中に体験し、生ける神への礼拝と信仰を生活の中心に置きつつ、取り巻く現実を受け入れ、かつ、きよく汚れない生き方を全うし、その時代と環境の中で神と人に仕えたのです。

### 結論

ダニエルは、クロス王の元年まで、約70年にわたりバビロン、メド・ペルシャの王に仕えました(21)。一人の神のしもべが、歴史の主権者である神への信仰を貫き、その時代環境の中で、きよく真実に生き抜いたことは、私たちにとって大きな励ましです。この時代にあつて神の前にきよく生きましょう。



## 研究資料

(金井由嗣)

## ダニエル書の歴史性と統一性

2013年10月6日の「研究資料」を参照。

## 文学類型、言語、構造、中心思想

本書には、知恵物語、預言、黙示の要素が同居している。旧約諸文書においてこの三要素は互いに密接に関係していた。本書の冒頭(2・4前半まで)と末尾(8章以降)はヘブル語、中間はアラム語で書かれている。この構成はよく考え抜かれたものであり、本書は全体にわたってよく練られた構造を示している。その中心メッセージは、地上の権力の興亡とそれに伴う暴力にもかかわらず神は歴史の主権者であり続け、神の民は苦難を通らされるが最後には主の勝利に連なる者とされる、ということである。

## テキスト

8 王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいとバビロニア王の宮廷で食べる「食物」(パトバーク。新改訳は「ごちそう」、新共同訳は「肉類」と訳す。元はペルシャ語で、旧約聖書ではダニエル書に2回出てくるのみの特殊な用語)は旧約律法の規定からは遠かった。しかし

「酒」(ワイン)に関しては、特に律法に違反する心配はない。律法上の汚れ以上に、ここでは宮廷の宴席に連なることが王権への精神的服従を意味することが問題であった(この単語のもう一つの使用例である11・26では「彼の食物を食べる者たち」が王を裏切ることを「陰謀」と呼んでいる)。また王宮の食事はまず異教の神々に献げられたことから、それを食べることは偶像礼拝への参加と見なされた(山口)。古代オリエントを代表する叙事詩「ギルガメシュ物語」には、野獣と共に生きる強者が「ごちそうを食べ酒を飲むことで野性を失い懐柔される場面がある。「カルデヤびとの文学と言語とを学ばせ」(4)ることと合わせた文化的同化の手段である。ダニエルたちは職業のための学習は受け入れたが、全存在を王の支配下に置くことは拒否した。異教の神々の名前を含む改名を抵抗なく受け入れた(7)彼らが、飲食には断固とした態度を取ったことに注意すべきである。豊かさや安逸な生活と引き換えに精神的服従を要求するこの世の力は、あからさまな偶像礼拝以上に警戒すべきものであることを彼らの態度から学ぶべきである。

宦官の長 古代の王制において、宦官(去勢者)が王者の身の回りの世話や子どもたちの養育を担当することは一般的

だった。子どもに詳しく説明する必要はないが、「王様の身の回りの世話をする役目の人」との説明があっても良いかもしれない。

**9 恵みとあわれみ** 恵み(ヘセド、「いつくしみ」とも訳される)は契約に基づく神の変わらない真実な態度。あわれみ(ヘラハミーム)は肉親など親しいものに向けられる深い愛情を表す言葉である。この二つはしばしばセツトで現れる。主はイスラエルにいつくしみとあわれみを注ぎ続け(イザヤ63・7)、イスラエルは主のいつくしみとあわれみを賛美した(詩篇103・4、8)。しかしイスラエルが主に背き続けた結果、主はイスラエルからいつくしみとあわれみを取り去られた(エレミヤ16・5)。その結果がバビロン捕囚である。しかし、ダニエルたちのように主に真実に従う者には主は変わらないうつくしみとあわれみをもって接して下さる。そのような信仰と悔い改めが神の民全体に及んだ時、再び主のいつくしみとあわれみが民を集め、国を回復されるのである(イザヤ54・7)(以上「TWO」[THAT参照])。この個所では、神に由来する「恵みとあわれみ」が異教徒である「宦官の長」に現れたことを神の特別な恩寵と理解している。原文の直訳は「神は、宦官の長

の前でダニエルに恵みとあわれみを施された」であって、あくまでも「恵みとあわれみ」を注ぐ主体は神である。

**11 家令** アッカド語(アッシリアやバビロニアの言語)で「世話役」(新改訳)。ダニエルたちの世話をするために付けられた直接の担当者。

**12 しもべらを** 直訳は「あなたのしもべたちを」。異教徒の管理者に対するダニエルの謙遜な姿勢に注目すべきである。偶像礼拝を強要するこの世の権力への抵抗は、同様に権力の支配下にある人や組織への攻撃となってはならない。ダニエルたちは支配者のルールを重んじつつ、自分たちの信仰を守り通すために神から与えられた知恵を用いた。彼らの提案の根底には、命と健康は食べ物ではなく神御自身に由来する、との信仰がある。

**参考図書** J. G. ボールドウィン(ティンデル)、W. S. タウナー(現代聖書注解)、千田次郎(新聖書講解シリーズ)、山口昇(新聖書注解)、『古代オリエント集』岸本通夫他『世界の歴史2 古代オリエント』、Keil & Delitzsch, *Theological Wordbook of the Old Testament*. Jenni = Westermann, *Theologisches Hand-wörterbuch zum Alten Testament*.

聖書

ダニエル 1・8～16

タイトル

自分を汚しちゃダメ！

暗唱聖句

自分を汚すまいと、心に思い定めた。

ダニエル 1・8

目標

汚れに満ちた世にあつて、きよい生き方を守る。

導入

(和田 治)

小4のえみちゃんのクラスで、すごく流行っているものがあります。それはなんと、「星占い」なんです。人気のテレビ番組で、自分の星座で一日を占うのですね。でも、えみちゃんはお友達から誘われても、絶対に占いをしません。占いは神様が禁じておられる汚れたことだからです。教会学校の生徒のえみちゃんは、「神様が喜ばれないことをして自分を汚すまい！」って心に決めているのです。周りがやっていることを、自分だけ「やらない！」って拒むことは、簡単じゃありませんよね。今日の個所は、「周りがどんなに汚れていても、自分を汚さずよく生きるんだ！」って心に決めて、周りに流されずに神様に従い通した人たちのお話なんです。

### ダニエルたちの決心

今から2千5百年以上前、南ユダ王国はバビロンに敗れ、ユダの人々はむりやり外国に連れて行かれたのです。バビロンの人々は、自分たちの手で作った偽の神々の偶像を、みなで礼拝し、汚れたことをしていました。

バビロンの王ネブカデネザルの命令で、ユダの人々の中から、特別に知恵があり、役に立ちそうな優れた若者たちが選ばれました。王は彼らに、バビロンの言葉を勉強させ、色々な訓練を施すように命じました。それだけではありません。王の食べるごちそうを毎日たっぷり食べさせ、3年間もうり元氣をつけて、それからバビロンの国にしっかり仕えるように準備させようとなりました。けれど実は、バビロンの王様の食べ物の中には、神様が「これは汚れているから食べてはなりません」と禁じておられたものが含まれていたのです。

選ばれた若者たちの中に、ユダ族のダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤがいました。彼らは決心しました。「僕たちはきよい神様に従うんだ。王様のごちそうによって自分を汚すわけにはいかない！」

### 守られたダニエルたち

そこでダニエルたちは、世話係の役人に、野菜だけ食べさ

せてもらえるようにお願いしました。でも、簡単には行きません。「他の若者と比べて、あなたがたの顔が青白く、やせ細ってしまったら、どうなるだろう。私がちゃんと世話をしていないとお叱りを受け、クビになるかもしれない」。そこで、ダニエルは言いました。「どうぞ、僕たちを十日の間ためしてください。ただ野菜だけを与えて食べさせ、僕たちの顔色と、王のごちそうを食べる若者の顔色とをくらべた上で、野菜だけの食事を続けても大丈夫かどうかを決めてください！」

さて、十日が過ぎました。あれれ？ 不思議です！ ダニエルたち四人の顔色は、王のごちそうを食べた若者たちよりも美しく、肉付きも良く、ずっとたくましいではありませんか！ 神様の恵みですね、ハレルヤ！ そこで、役人はダニエルたちに野菜だけを食べさせることに決めました。こうして、彼らは王様のごちそうで汚されることなく、きよく生きる生き方を貫くことができたのです。

### きよい生き方を守ろう！

今は、何かの食べ物を食べたら汚れる、ということはありません。でも、実は私たちを汚すものが案外身近にあるのではないのでしょうか。たとえば、「〇〇君、一緒に××神社にお

参りに行ってお守りを買おうよ！」とか「〇〇さん、あそここの古いコーナ―、すごくよく当たるって評判だからみんなで行くんだけど、一緒に行くでしょ？」と誘われた時、どうしますか？ 「おい、今日、用事が出来たって嘘をついて、プール掃除をさぼって遊びに行こうぜ！」「ここの本屋さんで万引きするから、見張つとけ！」「〇〇ちゃん、うざいから、明日からみんなで『シカト』するからね、ぜったい裏切ったらだめだよ！」「このエッチな本、みんなで読もうぜ、えへへへ」、などなど、きよい神様がお怒りになる汚れたことが、皆さんのすぐそばで起こるかもしれません。ダニエルたちのように、「神様の子どもらしく、きよく歩むんだ。自分を汚すまい！」って決心できていますか？

### 神様の恵みによって

私たちの力では、自分を汚さないように守ることはできません。神様は「きよく歩みたいんです、助けて下さい！」って祈る心をお喜びくださり、「自分を汚すまい！」との決心を祝してくださいます。さあ、周りが汚れていても、神様の恵みによって、きよく歩み続けよう！

♪心がまもられるように♪ (GS 24)

# 聖書 ダニエル3・8〜25 テーマ たといそうでなくても

## 序論

(大頭眞二)

偶像礼拝を拒否した三青年は、燃える炉に投げ入れられた。神は彼らを救われたが、彼らが18節で語った「たといそうでなくても」は、信仰の本質を教えている。

## 一、聞かれない祈り

ダニエルの友人である三青年には、驚くべき神の守りがあった。けれども「自動販売機式の信仰」にすぐに飛びつかないように注意しなければならない。つまりコインを入れると商品がすぐ出てくるように、祈れば必ず望みは実現する、という信仰である。しかし、遠足の日に雨に降られたことがある子どもたちの心には、すでに疑いが芽生えている。サマセット・モームの小説「人間の絆」の主人公フリップは、少年時代、真冬にむきだしの床の上にひざす跪いて不自由な足の癒しを祈り続けた。その祈りが聞かれなかったとき、彼は信仰と決別した。この小説は、かつて吃音きつおんであったモームの半自叙伝とされている。祈りが聞かれないときに、もつと祈りなさい(硬

貨が足りないからもつと入れなさい)と教えることがいつも最良のアドバイスとは限らない。

聞かれない祈りは存在する。実際、神を信頼する者がいつも危険から守られるとは限らない。ステパノはどうであったか。パウロもペテロも結局は殉教したと伝えられている。

祈りが聞かれないとき、人はしばしば神の全能を疑う。あるいは神には聞いてくださる気がないのではないかと悲観する。いずれの場合にも私たちの視点は、神が私たちの祈りを聞いてくださるかどうかに集中している。しかし三青年の場合はそうではなかった。

## 二、たといそうでなくても

三青年の神への忠実、報いを期待してのものではなかった。「たといそうでなくても」の一言に神への熱愛がほとばしる。600年後にパウロがピリピの教会に送った手紙にこうある。「そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。わたしにとつて

は、生きるとはキリストであり、死ぬことは益である」(ピリピ1・20～21)。この言葉にも同じ信仰の響きがあり、死よりも強い神への愛がある。

三青年も、そしてパウロも、たとい神が彼らの望みをかなえてくだらない場合でも、それに異論はなかった。なぜなら彼らの望みは、神の望み通りに生き、そして死ぬことであつたからだ。この愛が彼らに呼び覚まされたのは、神の愛を知ったことによる。神の能力だけを知るとき、人はまず恐れ、次に神を利用しようとする。けれども、愛なる神のご人格を知るなら、人の心は変えられ、献身の思いを抑えることができなくなる。三青年が知つた神も、パウロが知つた神と同じ神であつた。そしてパウロが知つた神とは、イエス・キリストにおいて、ご自身を罪人のために投げ出された神、展翅板の上に留められた昆虫のように、まったく無能になってくださった全能の神であつた。預言者ダニエルに十字架を啓示されていたという記録はない。けれども、ご自分の民のために何も惜しむことをされないお方として、三青年は神を知つていた。神の子のように見えた火の中の第四の者が、受肉前の主イエスであつたか、それとも御使いであつ

たか、私たちは知らない。しかし、一緒に火の中を歩いてくださったお方が神ご自身であつたとしても、ダニエルには少しの不思議もなかったのである。

### 結論

子どもたちに神を語るときに大切なのは、私たちがどのように神を知り、どのように神を愛しているかだ。神のお望みになることを私たちも望んでいるだろうか。主イエスは父なる神が全能であることを知っておられたから、「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません」(マルコ14・36)とおっしゃつた。そして十字架を前にして、「どうか、この杯をわたしから取りのけてください」と祈られた。けれども主は、その後にもう一言の祈りを加えられた。「しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」と。御子の祈りは聞かれず、父はその御手を動かすことをなさらなかった。そうであつても、いやそれだからこそ、父と御子の心は一つに結ばれ、交わりは破れなかった。父と御子の願いは、罪人の救いだつたのだから。私たちもまた、(たとえそうでなくても)の祈りをささげるように招かれている。



## 研究資料

(中島啓一)

ネブカデネザル王は、神によって見事に夢を解き明かしたダニエルをバビロン全州の総督に取り立て、また、ダニエルの勧めに従って、シャデラク、メシヤク、アベデネゴにバビロン州の事務をつかさどらせた(2章)。

その後、ネブカデネザル王は、自らの権勢を示すために60キュビト(約27m)もの高さの金の巨像造った。そして、帝国内のすべての人に対し、6種の楽器の音が奏でられるときにはいつでも、「ひれ伏してネブカデネザル王の立てた金の像を拝まなければならない」(3・5)という布告を出したのである。さらに、「だれでもひれ伏して拝まない者は、ただちに火の燃える炉の中に投げ込まれる」(4・6)との厳しい罰則も設けられた。

このような状況下でも、ダニエルの三人の友人たちは、まことの神に対する徹底した信頼と忠誠を示し、金の像を拝もうとしなかった。ついに彼らは火の炉の中に投げ込まれたが、神は彼らを守り、彼らの髪の毛一本さえ焦げることなく、助け出してくださった。「あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃え

つくことがない」(イザヤ43・2)とのみ言葉のとおりである。そしてついには、異教の王ネブカデネザルが、「シャデラク、メシヤク、アベデネゴの神はほむべきかな」(28)と、まことの神を賛美するに至ったのである。

## テキスト

8 あるカルデヤびとらが…ユダヤ人をあしざまに訴えたあしざまに(ア)アツカル、中傷しようとして・新共同訳  
カルデヤ人のある者が、ねたみによって、感情的に訴え出たことがわかる。十戒は唯一の神を示し、偶像礼拝を明確に禁じている(出エジプト20章参照)。ユダヤ人であれば当然、王の建てた像にひれ伏すことはできない。

12 ユダヤ人シャデラク、メシヤクおよびアベデネゴがおります シャデラク(「アク神」マルドゥク神の命令)の意)、メシヤク(「誰がアク神のようであるか」の意)、アベデネゴ(「ネボ神のしもべ」の意)。いずれもバビロニアの神々に因んだバビロニア名。彼らは信仰を曲げることをせず、三つの罪状から訴えられた。あなたを尊ばず 王よりも尊い方に従った。あなたの神々にも仕えず バビロンの偶像にひざをかがめなかった。金の像をも拝もうとしません 王の命令に従わなかった。



13 ネブカデネザルは怒りかつ憤って 激怒という意味の名詞が続いて記され、非常に強い表現である。絶対君主であったネブカデネザルにとって、許しがたい背反行為であった。

14 ほんとうなのか 王はこの真偽を正す程度には怒りが収まっているように見える。

15 ただちに拝むならば、それでよい ネブカデネザルは三人に甘言を用いて、王は寛容で度量が深いということを示そうとした。

16 この事について、お答えする必要はありません どれほどこの世の王が怒っても、命が奪われようとしても、明確で揺るぎない信仰を見ることができると。

17 わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます 彼らは、まことの神が火の中からも救い出すことのできるお方であるという絶対的信頼を表明した。

18 たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません 「神には救う力がないので救い出すことができなくても」という意味ではなく、「もし、神

が救い出すことをよしとされないで、救い出されなくても」という意味である。結果いかにかわらず、神を絶対的に信頼し、どこまで神に忠実であろうとした彼らは、たとい焼き殺されたとしてもこの世のものを拝むことを選ぼうとしなかった。

19 炉を平常よりも七倍熱くせよ ネブカデネザルは怒りに理性を奪われた。皮肉なことに、炉を熱くしたことは神の偉大さを表す結果になった。

22 引きつれていった人々は、その火炎に焼き殺された連行した者でさえ火炎に巻き込まれた。この世的に見るなら三人の命運は尽きたといえる。

25 第四の者の様子は神の子のようだ ネブカデネザルは火中の様子を見て驚いた。彼らが火によって何ら損なわれなかったこと、しかも猛火の中を歩く四番目の者の姿があったことにである。それは異教の王であっても、神の子と言わしめるほどの偉大さ、崇高さをまとった姿であった。28節ではネブカデネザルが「使者」（御使い）と呼んでいるが、受肉以前のイエスとする考え方もある。

参考図書 J. E. Goldingay (Word), 山口昇（新聖書注解 旧約4）他

## 聖書

ダニエル3・8〜25

タイトル  
暗唱聖句どんな中でも守り抜く勇氣！  
たといそうでなくても：わたしたちはあ  
なたの神々に仕えず、またあなたの立て

## 目 標

た金の像を拝みません。ダニエル3・18  
神の守りを信じつつ、どんなことがあつ  
ても神にのみ仕える者となる。

## 導入

(松浦みち子)

今日は、ダニエルの友人三人のお話です。まず友人の名前を紹介しましょう。ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤと言いますが、バビロンに捕らえられてきてからは新しい名前と呼ばれました。ハナニヤはシャデラク、ミシャエルはメシャク、アザリヤはアベデネゴと名付けられました。この三人はいつも心合わせてお祈りしていました。神様が守って下さったので三人はバビロンの国で大事な仕事を任されて働いていたのです。しかし、ある日、思いもかけない大変困ったことが起こったのです。

## 王様の命令

広い広場の真ん中に、どこからでも見渡せるキラキラ

輝く金ぴかのとても大きな像がデーンと、据えつけられました。幅3メートル、高さ27メートルもある像です。皆さんは奈良の大仏を見たことがありますか。高さは15メートルもあります。また鎌倉の大仏は11・5メートルもあるそうですから、その倍ほど大きい金の像です。誰がいったい…。ネブカデネザル王がバビロンの国が強く大きくなったことを誇って作らせたものです。王様は像が出来上がると、国中の役人たちを呼び集めて大声でこう命令しました。「みなの方よ！ 笛やハープの音が聞こえた時は、地にひれ伏して拝まねばならない。だれでも、ひれ伏して拝まない者はただちに火の燃える炉の中に投げ込まれるのだ」。何と恐ろしい命令でしょう。ピーヒョロピーヒョロ、ポロポロン 笛やハープの音楽が始まると、そこに集まっていた人々はハッ、ハァーと地面に頭をくっつけて金の像を拝みました。

## 偶像を拝まなかった三人

ところが、その中に三人だけ立ったまま金の像を拝まうとしなかった若者たちがいました。ダニエルの友人、シャデラク、メシャク、アベデネゴでした。彼らは王の命令も恐れず、唯一の真の神様以外は礼拝しなかったの

です。これをみた人々は王様に告げ口をしました。「王様、あなたに仕えているあの三人は金の像を拝みません」。それを聞いた王様はカンカンに怒って「なにいー。すぐに三人をここに連れて来い！」三人に向って「お前たちは私の作った金の像を拝まないというのは本当か。これから拝むというならゆるしてやるが、拝まないなら、火の燃える炉の中に投げ込むぞ！」と言いました。ところが、三人はきっぱりと答えました。「王様、私たちは決してあなたの金の像を拝みません。もしそんなことになれば私の仕えている神は、燃える炉の中から私たちを救い出すことが出来ます。たといそうでなくても、私たちはあなたの神々に仕えず、金の像を拝みません」。何と勇氣ある答えでしょう。三人は神様が守って下さることを信じて疑わなかったのです。

### 火の中の三人

王様はその答えを聞くと、カンカンに怒って、いつもの炉より7倍も熱くさせ、三人を縛り上げて投げ込みました。余りの熱さに三人を投げ込んだ人々は焼け死んでしまいました。火の中に落ち込んだ三人はどうなったのでしょうか。炉の中の様子を見た王様はビックリ！「や、

や、や。1、2、3、4」。えっ、中に4人の姿が見えます。しかも、縄目は解けて自由に歩いています。それに4人目は神の子のような姿です。彼らの信じる神様が守っておられるのだ！王様は燃えさかる炉の口に近づいて大声で「シャデラク、メシャク、アベデネゴ。出てきなさい。」と呼びました。すると、三人はやけどひとつしないで、出てきました。驚いたことに洋服も元のまま、髪の毛も焦げず、火のにおいすらしないのです。王は神をほめたたえてこう言いました。「彼らは王の命令に背き、体を犠牲にしても、自分の神により頼み、自分の神以外にはいかなる神にも仕えず、拝もうとしなかったのだ、神はみ使いを送って救われた。わたしは命令する。いかなる国、民族、言語に属する者も、シャデラク、メシャク、アベデネゴの神をのしる者があれば、その体は八つ裂きにされ、その家は破壊される。まことに人間をこのように救うことの出来る神は他にはない」と。

困難の中でも命がけで神に従うとき、神ご自身も共に歩んで助けて下さることがよくわかりますね。三青年のように神に従う者となりましょう。

♪主にしたがいゆくは♪（コ53、ホ87、こ改119他）

# 聖書 ダニエル6・1～24 テーマ 神礼拝を貫く

序論

(高橋頼男)

国の法律に反して、神への祈りをやめなかったダニエルは、ついにししの穴に投げ込まれました。しかし神は、ししの口からダニエルを守られました。神の守りとは、どのような人に与えられるのでしょうか。

## 一、神の御前に祈る人(10)

ダニエルは、彼を妬む者たちの謀略の文書に王が署名したことを知っていました。にもかかわらず、家に帰り、エルサレムに向かって開かれた屋上の窓もそのままに、へ以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝したのです。

すべてのことを知りつつ、あえていつもと同じように、信仰の良心に従って祈りをささげました。揺るぎない確立された神の御前の生活を、日々生きる聖徒の姿に、私たちは驚きと感動を禁じ得ません。何と力強い堅固な信仰でしょうか。ことあるごとに恐れ、迷い、信仰が揺れてしまう私たちにとって眩いばかりです。

ダニエルの祝福された人生の秘訣は、神礼拝と祈りを第一とする生きかたを貫き通したことです。それは、どんな時、どんな状況の中でも揺るがずぶれず、変わらなかったのです。

今日、私たちもダニエルのように、祈りと礼拝生活において、神第一を貫く決意をする必要はないでしょうか。世の激しい逆流に立ち向かい、偶像礼拝が支配する霊的暗闇の世にあつて、揺るがぬ信仰を確保し、キリストの証人としての生活を自由、大胆に生きるためです。

## 二、神の前に正しくよい人(22)

ダニエルは、王の前に、自分が神の御介入による奇跡によってししの穴から助け出された理由を説明して言いました。これはわたしに罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです」と…。

ダニエルは、神の前に罪を犯さず正しい清い生き方をしました。さらに、人の前にも誠実であり、忠実な働きをなし、彼の生活には公私において何の裏表もありませんでした。ですから、敵でさえも、彼の内には何らの不正も怠慢も欠点も見つけ出すことが出来なかったのです。

しかし、正しく清い生き方がこの世の人々に必ずしも受け入れられるわけではありません。むしろ、ダニエルのように煙たがられ、あらぬ批判を受け、憎まれ、迫害を受けるのがこの世の常です。

人となられた主イエスの歩みはまさしくそのとおりでした。私たちもクリスチャンとして神の前に人の前に清く真実に生きることを恐れてはなりません。そして、この世において誤解され、批判され、憎まれることを覚悟しなければなりません。いえ、そこにこそ私たちの使命があるのです。義のために迫害されるものが、地の塩、世の光となるのですから（マタイ5・10～16）。

### 三、神に信頼する人（23）

ダニエルがししの穴から出された時、その身に何の害も受けていませんでした。（彼が自分の神を頼みとしていたから…）とあります。これはダニエルがかなり高齢になってからの出来事です。若き日にバビロンに捕囚として連れて来られた時から約七十年、終始一貫、主に信頼し続けてきたダニエルの信仰の姿がそこにあります。

ダニエルは、異邦の国、偶像崇拜の民の中で、奴隷の民として生きて来ました。人がどう思い何と言おうが、

世間がどういう態度をとろうが、自分が信頼する神の御前に忠実に生きました。それが、異邦社会における彼の処し方でした。そのため、どんな迫害や苦しみを受けるかは、ダニエルにとって全く問題ではありません。ダニエルの神への深い信頼、ひたすら神に仕える忠実な信仰の生き方は、全く揺るぐことがなかったのです。

ダリヨス王は「生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか」と言っています。王は、ダニエルの信仰を通して、そば近く仕えるダニエルが礼拝している神、彼が信頼する神こそが、真の神、全能の神であることに気づいていたのです。この出来事は、神に信頼する者に与えられる試練が、かえって周囲にどんなに大きな恵みの機会となるかを教えています。

### 結論

偶像の国バビロンの政治の中枢に生きたダニエルの信仰と生活は、異教社会の日本に生きる私たちにとって、確かな示唆と励ましを与えます。揺るぐことのない一貫した祈りと神礼拝、神と人の前に清い誠実な生き方の秘訣は、彼の神に対する絶大な信頼にあったのです。

## 研究資料

(中島啓二)

この個所のメッセージは、神により頼む者は、必ず現実の死のわなから守られるということではない。現実には、教会の歴史を通して多くの殉教者がいる。大切なことは、自分の望むとおりにことが進むのではなく、神を中心とする見地に立つて生きることである。死から解放されるか、そうでないのか、それは神の御手の中にあることであって、いづれを通してでも、神の栄光があらわされ、神の計画が前進することこそが重要なのである。

この書の最終章では「その時…あの書に名をしるされたる者は皆救われます」(12・1)と、究極の救いが約束されている。ししの穴から救いは、来るべき究極の「死の穴」からの救いを先取りし、約束するものと言えよう。

## テキスト

1〜3 王は彼を立てて全国を治めさせようとした 王がダニエルを、総督たちはもとより、他の二人の総監よりも勝る立場に抜擢したことが、ねたみを引き起こした。  
4〜5 ダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのではければ、ついに彼を訴えることはできない

敵対者たちがダニエルを陥れるためには、その信仰心を利用するしかなかった。

6〜9 今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ： 彼らの王に対する敬意は表面だけで、実際は己の欲望のためだけに王の権威を悪用するものであったが、これはダニエルが、王に背く／背教するのいづれを選んでも、彼を窮地に追いやれる巧妙な法案であった。

10 署名された ダニエルを排除しての建議は不正な方法であつたが、それでも王が署名したならば有効であることを、ダニエルは知っていた。二階のへやの…窓の開かれた所で 祈りがもてはやされるときには隠れて祈るべきであるが(マタイ6・6)、禁令のもとで隠れて祈るなら、神よりも世の権力を恐れることになる。以前からおこなっていたように よってダニエルは以前からの祈りの習慣を変えなかった。一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り 朝と夕の一日二回、立つて祈るのが一般的であつたが(歴代上23・30)、彼が一日三回、ひざまずいて祈ったことは、特別な厳肅さ、祈りの必要性、そして謙遜を示すのだろう(列王上8・54、エズラ9・5)。感謝した 「夕べに、あしたに、真昼に」(詩篇55・



17) と、日に三度祈った詩人は「主はわたしがたたかう戦いからわたしを安らかに救い出されます」(詩篇55・18)と信頼を告白した。ダニエルの、祈りに続く感謝は、それと同種の信頼を表すのだろう。

12 ししの穴 狩猟のときに獲物として放つために、ライオンを飼育していたのであろう。ペルシャ時代については記録がないが、少し前のアッシリヤ時代には獣の檻に犯罪者を入れる公開処刑があったという記録がある。

14 王は…大いに憂え 王は総監たちの策謀を知って憤り、彼らに操られてしまった自らを恥じ、意図せざることはいえ、信頼するダニエルを窮地に追いやってしまったことを嘆いた。変えることのできないものしかし、王といえども法を曲げることはできない。それは、社会秩序の根底からの崩壊につながるからである。

16 どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように ダニエルを救いたい一心で、王が願ったのは、ダニエルが仕える神に対してであった。皮肉なことに、これは、王以外への願い事を禁ずる法律に、王自らが違反していることになる。このように、私的、内面的なことを禁ずる点で、そもそも無理のある法律であった。

17 これを封印した これは、受刑者に他者の助けを届かせないための措置だが、結果的に、救いが神によるものであることを明白にする役目も果たすことになる。

18 その夜は食をとらず… 王は、自分の愚かさを悔い、わらにもする思いで祈ったのだろう。

19 朝まだき起きて… 拷問に朝まで耐えた囚人を赦免する慣習がバビロンの時代にはあったようで、それがペルシャ時代のダリウスの世にも続いていた可能性は高い。彼が夜明けを待ちわびたのはそのためであろう。

20 生ける神のしもべ…神はあなたを救って…免れさせることができたか 「生ける神」という表現に、すでにこの問いに対する答えがある。すなわち、生ける神ならば彼を救うことができるし、救えないならば生ける神ではないのである。

22 わたしの神はその使をおくって… 三人の友人たちの場合(3・25)と同様に、神は試練のただ中に助け手を送って、ダニエルを守られた。

参考図書 注解書 J. E. Goldingay (Word), W. S. Towner (Interpretation), 山口昇(新聖書注解 旧約4) その他 The IVP Bible Background Commentary: OT



## 聖書

ダニエル6・1〜24

## タイトル

神様が一番！ どんなときにも…！

## 暗唱聖句

わたしの神はその使をおくつて、ししの口を閉ざされた。  
ダニエル6・22

## 目標

圧迫や迫害の中でも神への礼拝を貫く者となる。

## 導入

(和田 治)

みんなは今までに、「神様を信じて良かった〜！」って思ったことはありませんか？ 神様を一番にしているためにいやな目に遭ったり、損をしたり、辛いことが続いたりすると、どうでしょうか？ そんなときでも神様を一番に、心から礼拝するのは簡単じゃないですよ。今日は、先週登場したダニエルが、恐ろしい目に遭いながらも、神さまを一番にして礼拝を貫いた時のお話です。

## 神様を一番にしたダニエル

「おのれ〜ダニエルめ…！」バビロンの王ダリヨスのもとで働く役人たちは、ダニエルが憎くてたまりません。だって、王様の命令で、ダニエルが王様の次に偉い立場になったのですから。「奴隷のくせに生意気な！ なん

とかしてひきずりおろしてやる！」。でも、神様を信じるダニエルはきよく正しい人でしたので、どんなに粗さがしをしてもむだでした。そこで彼らは、王様をそのかして新しい法律を作ったのです。「これから三十日間、王様以外のどんな神にも人にも祈りをささげる者があれば、ライオンの穴に投げ込むこと！」ダニエルは、そのとんでもない法律が定まったことを知って、家に帰りました。一日に三度ずつ、ひざをかがめて心からの祈りを、毎日欠かさず神様にささげてきたダニエル。でも、今度そんなことをすれば、新しいその法律を破ることになり、ライオンの穴に投げ込まれます。生き残るには、神様への礼拝をやめるしかないように思えます。

ところが、驚いたことに彼は、これまでと同じように、エルサレムに向かって窓の開かれたところで、神様へのお祈りをささげ、礼拝を貫いたのです！ どうしてそんなことができたのでしょうか。それは、ダニエルにとって、人間の作った法律に従うことよりも、神様に従うことの方が大切だったからです。法律やルールは大切ですが、もし神様に従うことと反対ならば、その法律よりも神様に従う方が大切ですよ。ダニエルは命をかけて

「神様が一番！」という思いを貫いたのです。

### ライオンの穴に投げ込まれたダニエル

「しめしめ、思い通りだ！」さっそく役人たちは王様のもとに来ました。「王様！ ダニエルが法律をやぶり、一日に三度ずつお祈りしておりますぞ！」さあ大変！「なんとということだ！」ダニエルのことをとても深く信頼している王様は、何とかダニエルを救おうとしました。でも、いったん決まった法律は王様でも変えることができません…。とうとうダニエルは、ライオンでいっぱい

### 神様に守られたダニエル

の穴に投げ込まれてしまったのです。「ダニエル！ どうか、あなたがいつもお祈りしている神様が、あなたをお救いくださるようにな〜！」王様はそう叫んで、宮殿に帰って行きました。ダニエルのことが心配で、食事ものどを通りません。夜も全く眠れませんでした…。

朝早く、王様はライオンの穴に向かいました。そして、悲しそうな声で呼びかけます。「ダニエルよ〜！ あなたの神様はあなたをライオンから救ってくれたか〜！」すると、「王様〜！ 私の神様は私をライオンからお守りくださいましたよ〜！」ダニエルです！ さすが神様！

ダニエルは神様にしつかり守られ、けが一つありません！「神様が一番！ たとえどんなことがあっても…！」。そんなダニエルを、神様は守ってくださったのです。

実は、神様に従い、神様を信じているために、ひどい目にあったり、苦しめられたり、中には殺されてしまった人も世界中にたくさんいます。その人たちは神様から見捨てられたのでしょうか？ いいえ！ その人たちの魂を、神様は御手に抱き、この地上のどんな場所とも比べることができないほど素晴らしい「天国」で、豊かに祝福してくださるのです！ やがて「良くやった！ 忠実な愛する私のしもべ。ここであなたが受ける報いは大きいぞ！」って神様に抱かれる日が来るのですね。

### 結び

神様を礼拝すればいじめられる、損をする、辛い目に遭う…、たとえそんな時でも神様が一番ですよね。そう、ダニエルのように！ 神様は、信じる私たちがどんな時でも神様を一番にできるよう、勇気と力をくださいます。だから、心から「神様、あなたが一番です！」って、神様を礼拝し続けましょう！

♪イエスさまがいちばん♪（ホ68、イン7）

# 聖書 エステル4・1～17 テーマ 命がけの決断

序論

(高橋頼男)

エステル記は、ペルシャ王アハシユエロス（クセルクセス）の時代に首都スサの王宮においてユダヤ人である王妃エステルが活躍した物語です。ユダヤの祭りである「プリム祭」の起源を説明するもので、エステルが王妃に選ばれる経緯、ハマンの陰謀とエステルの命がけの活躍、ユダヤ人の救いと敵ハマンの滅亡が記されています。

## 一、王妃に選ばれたエステルの使命

王宮では政治の外に置かれていたエステルに対してモルデカイは、ハマンによって計画された民族絶滅の危機が迫っていることを告げました。そして今こそエステルが王妃の立場を用いて命を懸けた働きをなすべきだと論じます。（あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。）

神は、モルデカイもエステルも願ったわけではないのに全てのことを働かせ、国中から集められた美女たちの中から特別にエステルを選び、王妃となる栄冠を得させ

られました。そして、エステルは王宮に住み、思いもしなかった特権と名誉を得たのです。それは何という光栄と祝福でしょうか。しかしそこには、神のご計画があることを忘れてはなりません。自分の喜びや名誉のためにそのような祝福を受けたわけではありません。神は無目的に人を選ばれることはありません。神の選びや祝福には、必ず神の大きいなるご計画と期待が秘められているのです。その大きいなる務めのためにこそ、彼女は思いがけない榮譽を受け王妃にまで引き上げられたのです。神は、この時のために、すなわち、民族撲滅の危機からご自分の民を救うために、エステルを備えておられたのです。私たちに与えられている世や社会における立場や榮譽は、私たちの自己目的の人生や満足のためではなく、神が期待しておられる使命を果たし、奉仕する機会であることを忘れてはなりません。

## 二、エステルの決断

神のご計画と導きに対して、人の側での信仰と従順の応答がなされなければなりません。そして、その従順には命を懸けるほどのものです。

エステルは何としても、至急、王の前に出て嘆願しな

ければならないと思いました。しかし、王の好意を受けていたエステルではありますが、もう一カ月も王の招きはなく、自分から王の前に出ることは許されていなかったのです。王の身が守られるため、だれも王の招きなく近づくことは出来ず、勝手に近づく者は身分立場を問わず死刑になるという法律がありました。ただし、王が笏をのべる者には命が守られ近づくことが許されるのです。そこでエステルは決断をしました。三日の断食を依頼し、神が王の心を動かしてくださるようにと祈りを求めました。そして、自らは「わたしはもし死なねばならないのなら、死にます」と、自分の命を神のみ心に全く委ね、その結果がどうであろうと従う決心をしたのです。

### 三、ユダヤ人の救い

この結果、ユダヤ人撲滅というハマンの計略は失敗し、ハマン自身が自分の立てた計略によって失脚し命を失うことになりました。王は、新しい勅令を出してユダヤ人に対する恩恵を施し、その命と財産を守るようにしたのです。その結果、敵は滅ぼされ、ユダヤ人は驚くべき勝利を取ることができたのです。

神は、神を知らない人々や異教社会にあつて、人間の

政治、社会、個人の生活の中にもまでも働かれ、摂理をもつて神のご計画を進められています。そして、神のご計画に従って忠実に、信仰によって応答し、神のためには身をささげて真剣に応答する人を用いてみ心をこの世に成し遂げられるのです。「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さる。」(ローマ8・28)。

この書には神の名が一度も出てきません。しかし確かに神は生きて働かれ、神の民を敵の恐ろしい計略と力から守り、見事に敵を打ち破ってくださいました。神はこの地(異教国、偶像崇拜、神を知らない人々の社会、支配)にある神の民(クリスチャン)を、大きな憐れみと見えない摂理の手をもって、悪しき者の手と試みから守り救ってくださいます。この世の権力と支配の現実の中で、神が見えず神がわからなくなるようなことがあります。しかし、神はご計画のうちにそのみ心を成し遂げ、見えない摂理の御手をもって働いておられるのです。

### 結論

神を信じて熱心に応答し、委ねられた神からの使命に身をささげいく者となりましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

エステル記はエズラ記、ネヘミヤ記と同様、バビロン捕囚帰還後の歴史を背景としている。バビロンを滅ぼしたペルシヤ王クロスは、BC 539年に勅令を出し、ユダヤ人を故国に帰るように促した。しかし帰還した民はわずかで、大部分はペルシヤに残留した。本書の記事はゼルバベルが第一部隊を率いて帰国し、神殿再建を果たした第一期(エズラ1〜6章)とBC 458年のエズラ帰還の第二期(エズラ7〜10章)の中間に起こった出来事を記している。この時の王はアハシユエロス(クセルクセス)、舞台はペルシヤの首都スサである。このときペルシヤにいるユダヤ人は、ハマンによって計画された民族根絶の危機にさらされていた。しかし、この異邦の地に残留している神の民に対して、神は大きなあわれみを注ぎ、見えない摂理の御手をもって神の民を悪しき者の手から救われたのである。本書の特徴は、神の名が一度も出て来ないことである。人間の政治的、社会的、個人的な活動の中に神が摂理的に働かれて、神のご計画が必ず実現していく事を教えられる。しかし同時に、エステルやモルデ

カイが自分たちの置かれた場所において忠実に神の召しに信仰によって応答し、己を捨て、神のみこころに身をささげて、神の民と民の栄光のために生きたところに神のご計画が実現したことを覚えるべきである。

## テキスト

1〜3 衣を裂き、荒布をまとい、灰をかぶり これらは悲しみを表わす行為であり、イスラエルだけでなく広く古代オリエントで行われていた(イザヤ15・3、ヨナ3・5〜6等)。各州のユダヤ人もモルデカイと同様の反応を示している。彼らはただ悲しんだだけではない。本書は宗教的行為を表面に出していないが、これらの行動で神への悔い改めと嘆願の祈りを暗示している。

4 エステルは政治の動きの外に置かれていたためモルデカイの悲しみの理由を知らなかった。受けなかったモルデカイが着物を受け取らなかったのは、彼の悲しみが容易になだめられるものではなく、なお祈り続ける必要を感じていたからであろう。

11 **すべて召されないのに内庭にはいつて王のもとへ行く者は、必ず殺されなければならない** この法律は王の生命を守るため、またささいな問題で王を悩ますことが

ないために定められ、勝手に近づく者は身分を問わず死刑となった。したがって王がエステルを招くのでなければ、王のところにいくことはできなかった。ここまで一ヶ月間エステルは王から招かれておらず、王に嘆願するのは困難な状況であった。笏 王の權威を表わす杖。

13〜14 モルデカイはこの危機的状況から救われるために、エステルを懸命に説得した。あなたは王宮にいるゆえに難を免れるだろうと思ってはならない エステルもユダヤ人虐殺の命令の対象外ではない。ほかの所からモルデカイはエステルが事を起こさなかったとしても神はエステル以外の方法を用いてユダヤ人を助けてくださると信じていた。それは神の民に対する約束を信じる信仰から来ている。あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう 神の召しへの不従順は自らとその家の滅びを刈り取ることになるという警告。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう モルデカイはエステルの生命をかけた働きこそ神の御旨であると確信していた。ゆえに与えられた立場を最大限に用いるようエステルを励ました。これは神の摂理に対する信仰である。モルデカイもエステルもす

すんで王妃を目指したわけではなかったが、全ての状況が働いて彼女は王妃となった。これは今回の危機のために神が人の思いを超えてあらかじめ準備されていたのである。

15〜16 三日のあいだ 通常、断食は一日のみであったので、この要請は、この責務が非常に重大であることを認識していたことを表わしている。これはとりなしの祈りの依頼である。王の心を動かすのは自分ではなく神であると信じていた。わたしがもし、死なねばならないのなら、死にます これはあきらめではなく自分の生命を神のみこころに完全にゆだねて、自らを明け渡して従う決意を表わしている。

この結果、ハマンを失脚させることに成功し(5〜7章)、王は新しい勅令を出してユダヤ人自らの手でいのちと財産を守るようにし、ユダヤ人は勝利を収めることができたのである(8〜9章)。

参考図書 鈴木昌「エステル記」『実用聖書註解』、工藤弘雄『新聖書講解・エステル記』(以上のちのことば社)、C・E・デマレイ「エステル記」『ウェスレアン聖書注解・旧約篇2』(イムマヌエル綜合伝道団) 他



## 聖書

エステル4・1～17

## タイトル

神様から与えられた使命に生きよう！

## 暗唱聖句

わたしがもし死なねばならないのなら、死にます。

エステル4・16

## 目 標

神からの使命を命がけて果たす者となる。

## 導入

(和田 治)

皆さん、「使命」っていう言葉を知っていますか？ 漢字で「命を使う」と書きます。与えられたとても大切な務めのことです。例えば、先生の使命は、教会学校の皆さんに聖書のメッセージを伝えることですね。実はあなたにも使命があるのです！ 神様は私たち一人一人に使命を与えておられます。今日は、神さまから与えられた使命を、命を懸けて果たした女性に注目しましょう！

## 王妃に選ばれたエステルの使命

その人の名は「エステル」。先週のお話に登場した、バビロンの次に世界をおさめたペルシャの都に住んでいたユダヤ人です。その国の王アハシユエロスは、新しい王妃を国中の若い美しい女性の中から選ばうとしました。たった一人、王妃

として選び抜かれた一番素敵な女性、それがエステルだったのですね。

ところが、ハマンという悪い家来が、王様をうまくだまし、何と、ペルシャに住むユダヤ人を皆殺しにする命令を国中に出したのです！ 「ううう、なんということだああ」。エステルのおじさんのモルデカイは、あまりのことに大声で叫びながら、王宮の門の前まで来ました、荒布をまとい、灰をかぶって！ それは、深い悲しみを表すしぐさです。心配したエステルは、使いをやつてモルデカイにわけを聞きました。そこで初めて、自分たちユダヤ人が皆殺しにされようとしていることを知ったのです。モルデカイは、エステルが王の前に出て、ユダヤ人の命を助けてほしいとお願いするよう告げました。

それを聞いたエステルは大変困りました。モルデカイに再び使いをやりました。「この国では、お呼びもないのに王宮の内庭に入れば、その場で打ち首なのです。陛下が金の笏を伸べてくだされば別ですが」。この法律は王の命を守るために定められ、勝手に近付く者はどんな身分の人でも死刑だったのです！ 王妃も、王が招いた時しか王に会えませんでした。しかも、これまで一か月間エステルは王から招かれてい



なかったのです。今の彼女にとって、王に何かをお願いするのは、死刑になるかもしれない危険な事でした。モルデカイは言いました。「自分がユダヤ人たちから離れて王宮にいるから助かるだろうと考えてはなりません。黙っていたら、別の所からきつと助けがあるでしょう。でも、あなたは滅びるに違いありません。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれないですよ！」

### エステルへの決断

そこで、エステルは答えました。「行つて都にいるすべてのユダヤ人を集め、私のために断食して祈つて下さい。私も断食して祈ります。そして法律にそむくことですが、王のもとへ行きます。私もし死なねばならないのなら、死にます」。エステルは、使命のために命を懸ける決心をしたのです。「私に与えられた使命は、今、王のもとに行つて、ユダヤ人を助けしてくれるようにお願いすることなのだ。たとえそのために死んでも構わない！」と。

三日目、エステルが王にお願いしようと内庭に入りました。すると、王の笏がエステルに伸ばされたではありませんか！こうして、ハマンの立てたユダヤ人皆殺し計画は失敗し、代わりにハマンが王に処刑されたのです！

### 私たちの使命

実はこのエステル記には、「神様」という言葉が一度も出てこないんです。でも、今日のお話を分かつたでしょ？王が金の笏をのびしてエステルの願いを聞き入れたのは、神様がエステルやモルデカイの祈りにお応え下さったからだつてこと。いや、そもそも、エステルが王妃に選ばれたのも、ユダヤ人にとっての大ピンチのこの時のために神様が備えて下さったのですね、ハレルヤ！

### 結び

この世界では、「どうしてこんなひどいことが…」と思うような出来事が起こることがあります。でも、どうか忘れないで！神様は私たちのお祈りに答えて、ご計画の内にそのみこころを成し遂げられることを！そして、神様は求めておられます。「私をお用い下さい。私はあなたのものです！」とエステルのように使命に生きる人を！あなたの一度限りの人生は、あなたを愛し、お救い下さった、神様の栄光を現すためにあるのです。あなたの使命はイエス様の素晴らしさを証しすることなんです！神様のものとして自分自身を献げ、従いましょう！

♪もちいたまえわが主よ (ホ113)

# 聖書 ヨハネ1・1～5、9～14 テーマ すべての人を照らす光

序論

(福井文彦)

クリスマス之夜、大きな星がひときわ輝いたという出来事は、私たちに心温まる思いを与えてくれます。ヨハネは、福音書の冒頭で〈すべての人を照すまことの光があつて、世にきた〉と、キリストの誕生を紹介しています。この光であるキリストを信じ受け入れるとき、私たちは新生し、神の子とされるのです。

## 一、いのちなるキリスト

ヨハネは、キリストのことを〈初めに言があつた〉と、「キリスト」と言わないで、「言」と表現しました。当時、すでにキリスト教がユダヤ人の間だけでなく、異邦人の間にも広がっていました。ですから、彼らには、「言」すなわち「ロゴス」の方がよく理解できたのです。

この「言」であるキリストは、〈初め〉から存在されたお方でした。それは、時間の最初、歴史の最初という意味ではありません。時間が始まる以前、つまり創造のみわざを開始されたその時からご存在されたお方でした。

(3)。このキリストは〈神と共にあつた〉お方です。すなわち、キリストは永遠の神であり、父なる神と永遠の交わりの中におられたお方なのです。

〈この言に命があつた〉とは、単なる法則や原理のようなものではありません。この命は、肉体的命、霊的な命、永遠の命です。キリストを信じるとき、命が与えられ、死から命へ移されます(ヨハネ5・24)。〈そしてこの命は人の光〉でした。〈やみはこれに勝たなかつた〉のです。闇の中に光が差し込んでくると、闇は姿を消します。しかし、光の中に、闇は入ることはできません。闇が光を駆逐することはできないのです。

## 二、光なるキリスト

〈すべての人を照すまことの光があつて、世にきた〉とあります。キリストの来臨は、私たちに神を現わし、啓示するためでした。光は物を照らして見えるようになります。そのように、光なるキリストによって、心の目が開かれて、彼を通して、神がはつきりわかるようになるのです。

また、キリストは、闇の中にいる者に光を与えます。ヨハネによる福音書には、光を与えたイエスの業が二つ

記されています。その一つは「罪を赦された姦淫の女」(8章)のことで、もう一つは「光を与えられた盲人」(9章)の出来事です。

「姦淫の女」の話は、二重の意味で人間の暗黒を表しています。一つはイエスと女を訴えている群衆で、彼らは自分の罪を棚にあげて、ただ訴えているのです。もう一つの暗さは、罪を犯した女です。彼女は自分の罪が白日の下にさらされて、身の置きどころもなかったと思います。しかし、キリストは彼女に「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい」(8・11)と言われました。キリストの十字架は、今も信じる者の心に、どんな罪も赦される、闇に打ち勝った光として輝いています(5)。

### 三、キリストを受け入れる者の特権

〈まことの光〉の、〈まことの〉という言葉は、ギリシャ語では「アレーシノス」で、「真実な」とか「本当の」という意味です。キリストは、暗黒の世界に輝く唯一本当の光として来られました。

しかし、この世の人々はキリストがこの世に来られた時、キリストを認めることができませんでした。それは、人間が罪を犯し神から離れているため、キリストを認め

たくなかったのです。別の言い方をすれば、霊的に盲目な人は偏見をもっていて、真理に敵対してしまうのです。ですから、キリストが〈自分のところ〉に来られたのに、ご自分の民は受け入れませんでした。ここで〈自分のところ〉とは「ご自分の国」のことで、イスラエルのことです。それで、イスラエルの民はキリストを信じることなく、十字架につけて殺してしまいました(マタイ21・33〜40)。

しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。〈力〉とは特権(新改訳)、資格(新共同訳)の意味です。たといだれであっても、謙虚にキリストを知り、この世界の主、また自分の救い主として受け入れる人は、神が恵みによって、神の子どもとしての特権を与えてくださいます。

### 結論

イエス・キリストは、すべてを照らす光としてこの世に来てくださいました。彼は神を現わし、それだけでなく罪を赦し救い、神の子となる特権を与えてくださるのです。

## 研究資料

(井上義実)

ヨハネが記す神が人となられた受肉、イエスの降誕である。ヨハネの筆致は、簡潔で美しく、詩的である。

## テキスト

1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であつた この書き出しに際して、ヨハネの念頭には天地創造の創世記1・1があつたであろう。ヨハネによる福音書の主題は人の新たな創造である。言(ギリ)ロゴス

ヨハネはロゴスを普通の会話の言葉としても用い、イエスが語った言葉、神の言葉としても用いている。さらに重要なこととして、ロゴスはイエスそのものである。イエスは受肉した言葉であることをヨハネは独自に述べている。「初めに」という語はイエスの永遠性、すべての前にすでに存在されていた先在性を表している。1節後半は、イエスが神であること、父なる神との人格的な交わりを持つことを記している。ヨハネはロゴスという独自の表現で、キリスト論の根本を最初に提示している。早くも一世紀には、正統的なキリスト論をくつがえすグノーシス派の異端が入り込もうとしていた。今に至るま

で異端的なキリスト観は現れ、また消えていく。

3 すべてのものは、これによってできた 創造者は父なる神であると考えがちであるが、創造のわざはイエスとの共働でなされた。神は「光あれ」との言葉を最初に、言葉によって創造の業をなされている。全宇宙は神の言葉(ロゴス)であるイエスによって創造された。イエスは創造者であり、全宇宙の主権、統治、支配をお持ちのお方である。

4 この言に命があつた 命(ギリ)ゾーエー 新約聖書で命と訳される語はゾーエーとプシユケーに大別される。共に、様々な意味を持つているが、地上の命を越えた、永遠にいたる神からの命はゾーエーに含まれている。イエスは神からの命を持ち、人に分かち与えるお方、霊的な命の源泉である。ヨハネは神からの命を巡って、この福音書を記している。この命は人の光であつた 光(ギリ)フォース 聖書は神の栄光の輝きを記す。光は神の本質である。神は光を照らし、光を示すお方である。イエスは光としてこの世に来てくださり、光に従う者に神からの命を与えて、光に生きる者としてくださる。

5 光はやみの中に輝いている ヨハネは霊的な意味合

いでのやみを語る。神と離れるならば、やみは深くなる。罪は暗やみに属し、悪の力はやみの力である。やみはこれに勝たなかった イエスの光は、どんなに深く、濃いやみをも照らす神の光、命の光である。

9 すべての人を照すまことの光 まことの(ギ)アレーシノス) 人についても用いられるが神の本性として多く用いられる。すべての人を照す イエスは全人類を照らす光である。イエスの光は十分であるが、残念ながら光に背を向け、光よりも闇を愛する者もいる。

10 彼は世にいた。世は彼を知らずにいた イエスがクリスマスにこの世に生まれる以前に、人の目には見えないうが世におられたことを示す。もし人が創造された世界、万物の秩序と支配に心を向けるならイエスを知ることができた。

11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった イスラエルの民は神に選ばれ、律法が与えられ、恵みの約束の内にあった。預言の成就として、ユダヤに救い主イエスは生まれた。イスラエルの民はイエスを信じることなく、拒み、十字架に付けた。

12 彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々

「自発的、意志的にイエスを信じる者ならだれでも」という意味である。受け入れることは信じること、信じることは受け入れることである。神の子となる力 力(ギ)エクス・シア) 本来、力と訳すべきではない。特権(新改訳)、資格(新共同訳)の方が正確である。神の子とする力ではなく、神の子とされる特権が語られている。

13 血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず 先祖にだれかを持つということではない。人間の力でも、努力でもない。ただ神への信仰によって、新生の恵みに与るのである。

14 言は肉体となり 神の言葉である方が、罪以外はすべてにおいて私たちと同様の人となった。神であり、人である唯一のお方である。宿った(ギ)スケノー) 本来、天幕を張るという意味である。他に黙示録で四個所用いられている。わたしたちはその栄光を見た イエスは多くの奇跡をなさったが、特にヨハネが見た山上の変貌(へんぼう)をさすのであろう。めぐみとまことに満ちていた イエスは律法を越えた、恵みの福音という真理を表された。

参考図書 G. R. Beasley-Murray (WBC), Leon Morris (NICNT) 他

## 聖書

ヨハネ1:1-5、9-14

## タイトル

すべての人を照らす光

## 暗唱聖句

すべての人を照すまことの光があつて、  
世にきた。  
ヨハネ1:9

## 目標

心の闇を照らし、救いきよめるイエス様  
を、心に信じ受け入れる。

## 導入

(松浦みち子)

アドベントクランツにろうそくの火が灯りました。この時期になると、教会でも、町でも、ぴかぴか光る飾り付けをします。あなたのお家でもきれいに飾っていますか。工事現場の光は小さいですが、赤いランプがぴかぴか光って、工事中であることを教えてくれますね。光というのは、闇くやみを照らし出したり、私たちを危険から守ったり、行く道筋を示したりします。

## 神の言なるイエス様

聖書の一番初めの創世記には、この世界の初めにあったものが書かれています。何があったと思いますか？「闇」だけがありました。その闇に向かって神様が「光あれ」と言われると光ができました。このように、まず神

の言葉が発せられて、この世が創造されたのです。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた」(1-3)。この「言」とはイエス様を指します。ですから、この「言」のところにイエス様に置き換えて読んでみましょう。「初めにイエス様があった。イエス様は神と共にあった。イエス様は神であった」とね。ほら、よく理解できるでしょう。神のこゝとばであるイエス様は天地創造の初めからおられ、この世を造られました。それだけではなく、ご自分の内に永遠の命を持つておられ、その命はすべての人の光でした。イエス様は闇の中で輝き、罪と不信仰のこの世を明るく照らし、私たちの行くべき道を指し示すお方なのです。

## 闇の中に輝く光

今から約二千年前の人々の様子はどんなだったでしょう。ダビデ王によって築かれたイスラエル王国は、かつては真の神様を信じ敬う素晴らしい国でした。しかし、いつの間にか人々は神様を信じることをやめ、自分勝手な生活を始めたのです。その結果、国は滅ぼされ、他の国の支配の中で、夢も希望もない生活を送るようになり



ました。マラキという預言者が、「神様を恐れて歩みなさい。やがて神様のさばきの時が来ます」という神様からのメッセージを伝えましたが、人々は全然、耳を貸さうとせず、わがままな生活を続けました。このマラキを最後に預言もやんでしまい、暗黒の時代が四百年も続きました。しかし、やがて時が満ち、ひとり子イエス様がこの世に遣わされたのです。

イエス様は「神のことば」そのものです。「ことば」を辞書で調べてみると、「人々が思想、意思、感情などを伝え合うためのもの」と記されています。つまり、神様は目に見えないお方ですが、「神のことば」として遣わされたイエス様を通して、ご自身の思想、意思、感情を人々に明らかにするようにされたのです。目で見ることの出来るイエス様は人となられた神様ご自身なのです。

### すべての人を照らす光

このイエス様は、すべての人を照らす光です。光は闇を照らし、隠れた部分を明るみにだします。ですから、光としてこの世に來られたイエス様は、人々の心を照らす光として共に歩まれました。隠れた罪を赦し、病を癒し、涙をふき取ってください、生きる希望を与えてくだ

さいました。最後には十字架にかかって罪深い私たちの身代わりとなって死んで、救いの道を開いてくださいました。その生涯を通して、神様がどんなに恵みとまことに満ちたお方であるかを見せてくださったのです。でも人々は、このすばらしいイエス様が来てくださった時、救い主とは気付きませんでしたし、光のもとに來ようとしませんでした。

もし、あなたが外から帰った時、家に鍵がかかっていて、中に入れなかったらどうでしょう。悲しいことですね。イエス様がこの世に來てくださった時、人々の心は鍵がかかっているようで、喜んでお迎えした人は、だれもいませんでした。

あなたの心には鍵がかかっていませんか。神様は、イエス様を喜んでお迎えする人、その名を信じた人々には神の子となる特権が与えられると約束されました。さあ、あなたの心の真ん中にイエス様をお迎えしましょう。「イエス様、どうぞ私の心にお入りください。私の救い主となってください」と。これがイエス様の一番喜んでくださるクリスマスを持つ心なのです。

♪ひかりひかり♪ (こ52、ふ83、ホ109)



# 聖書 ヨハネ1・29〜37 テーマ 神の小羊キリスト

## 序論

(高橋頼男)

バプテスマのヨハネは、神に示されて自分が見聞きしたことを証しし、イエスがキリストであることを人々に紹介しました。彼の証しと、さらにその核心の言葉（見よ、世の罪を取り除く神の小羊）について学びます。

## 一、バプテスマのヨハネの証し（29〜34）

バプテスマのヨハネはこの時すでにイエスにバプテスマを授けていました。そして、このイエスについて示されていたこと、見聞きしていたことを証しました。

①この方は（わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである）とは、イエスの先在性、永遠から永遠におられる神であることを証しています。

②（わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼に上にとどまるのを見た。…わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた…）「聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者で

ある』（ルカ3・22）。御父とイエス様が一体であられることを明らかにし、父と御子の関連を証しました。

③ヨハネは神から語られていたイエスについての証しを見て、この方こそ（御霊によってバプテスマを授けるかたである）と証しました。

④そして、何よりも、このお方は（世の罪を取り除く神の小羊）であると証しています。

## 二、世の罪を取り除く神の小羊（29）

罪ある人間が聖なる神に近づくには、どうしてもいけにえが必要です（レビ17章）。とりわけ罪のためのいけにえが、ささげられなければなりません。神が備えられた世の罪を取り除くいけにえは「神の小羊」でした。昔、神殿において、罪の贖いあがなのために小羊が連れてこられ、人々はその小羊に手を置いて罪の告白をしました。そうすると、人の犯した罪が小羊の上に転嫁され、祭司は小羊を殺しその血を祭壇に注ぎました。このようにして、罪のない小羊による身代わりの死を通して、人間の罪の赦しゆるの祭儀が行われたのです（レビ4・32〜35）。しかし、そのような儀式によってでは人間の心はきよめられることができず、良心も休まることはなかったのです。

この旧約時代の祭儀は、やがて来られるイエス・キリストによる贖いのひな型でした（ヘブル9・11～14）。

「神の小羊」のモチーフはすでに旧約の中に出てきます。出エジプトにおいて、過ぎ越しの祭りがおこなわれ、小羊が殺されてその血が家のかにもいに塗られました。その夜、さばきのみ使いは、その血を見て過ぎ越しの夜です（出エジプト12章）。イザヤ五三章には、苦難のしもべが「ほふり場にひかれて行く小羊」（7）として描かれています。これらはキリストのことです。ヨハネは、この十字架のイエスこそ、神の小羊キリストであることを言っているのです。イエス・キリストこそ人間の罪を贖いきよめるお方でした。このお方は、人間の罪を贖うために人となられ、罪を犯さない生涯を全うされ、十字架という祭壇の上に神の小羊としてご自身をささげられました。このキリストの血による贖いによって、初めて人間は罪の完全な贖いを受けることができたのです。バプテスマのヨハネはまさに、この方こそ永遠の神の小羊、人間の罪を贖うお方であることを指し示しました。

### 三、見よ（29）

かつて、モーセは荒野において神に命じられ、青銅の

蛇を造りました。その蛇は宿営の中で旗竿の上につけられて高く掲げられました。そして、罪を犯し毒蛇にかまれた者が、どこにいても直ちに竿に掲げられた蛇を仰いで見るなら、瞬時に毒が除かれ生きることができました（民数記21・4～9）。罪を犯した者はいつでもどこからでも「青銅のへびを仰いで見て生きた」（9）のです。

バプテスマのヨハネは「見よ！」と叫びました。私たちのために、すでに成し遂げられた神の贖いの御業を信じ受け取るという『信仰』を促しています。信仰によって罪の赦しは私たちのものとなるのです。どんな時にも、どんな状況の中にあっても、ただひたすら、繰り返し繰り返し十字架の主を仰ぐ者でありたいと思います。

イエス様は、私たちの罪のために十字架にかかり、身代わりの贖いを成し遂げてくださいました。その十字架が、私の罪のためであると信じて十字架の主イエスを仰ぐ時、私たちの罪は直ちに赦され、きよめられ、生きるものとされるのです。

### 結論

今、神の小羊であるイエス・キリストを仰いで、信じて、罪の赦しを得ましょう。

## 研究資料

(中島啓一)

## テキスト

29 その翌日 ユダヤ人たちが洗礼者ヨハネのもとに使用を遣わした日(19、28)の翌日。そのやりとりの中でヨハネは、自分はキリストではないこと、そしてキリストは自分のあとに来られることを言明している。イエスが自分の方にこられるのを見て ヨハネ福音書はイエスがバプテスマを受ける実際の場面を描いておらず、ここにイエスは、すでにヨハネからバプテスマを受けた者として登場する。ヨハネは、群衆に対してイエスを、その使命を端的に表す表現によって紹介するのである。世の罪を取り除く神の小羊 黙示録5・6以下には「ほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがな」った「小羊」が登場する。このようにキリストを指し示す表現として小羊を用いるのは、新約ではヨハネ福音書と黙示録の、二つのヨハネ文書だけである。旧約に目を移すと、洗礼者ヨハネがたぶん念頭に置いていたであろう個所がいくつかある。一つは「神みずから燔祭の小羊を備えてくださる」

(創世記22・8)というアブラハムがイサクをささげる場面。二つ目は出エジプトにおける過ぎ越しの小羊(出エジプト12章)である。これら二つにおける小羊は、厳密に言うところの罪のための犠牲ではないのだが、前者ではイサクに代わる犠牲として(ただし実際は雄羊)、後者では罪の力からの解放を象徴するものとして捉えることができる。三つ目の個所はイザヤ53章である。ここでは、キリストを指し示す苦難のしもべが、「ほふり場にひかれて行く小羊」(7)として「自分を、とがの供え物となす」(10)とあり、罪のための犠牲というポイントがはっきりと示されている。このように「神の小羊」のモチーフは、苦難のしもべのイメージを中心としつつ、複合的な背景を持つものと考えて良いだろう。そのイザヤ53章では、「毛を切る者の前に黙っている羊」(7)とあるように、苦難のしもべの従順さが強調されている。イエスは、まさに従順なしもべとして、ヨハネからバプテスマをお受けになった(マタイ3・15)。罪なきお方であるから、もちろん自分の罪のためではない。贖罪の死という使命を、強いられてではなく自発的に受け入れたことのおかげとして、イエスはバプテスマをお受けになったた

である。

**30 わたしよりも先におられたからである** 27節でもヨハネはイエスの圧倒的優位を告白しているが、ここで一つの理由を示している。「あとにおいでになる方」(27)であるのに、「先におられた」と言うことは、「初めに言があった」(1)というイエスの先在性を暗示するものであり、それが「神の子」(34)告白につながっていくのである。

**31 わたしはこのかたを知らなかった** 神からの約束のしるし(33)を見るまでは、ヨハネも誰がキリストであるか知らなかった。このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために… 彼が神から与えられた使命は、まさにイエスの公生涯のためのカーテンを開くことであった。

**32 御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た** イザヤ書の預言「その上に主の霊がとどまる」(11・2)、「わたしはわが霊を彼に与えた」(42・1)の成就であると共に、ヨハネが与えられていたしるし(33)の実現であった。彼はそれを見て初めて、イエスこそキリストであると確信したのである(34)。

**33 御霊によってバプテスマを授けるかた** エゼキエルは、神が民を「清い水」(36・25)できよめるだけでなく、民に「新しい霊」(同26)をお授けになると語る。前者がヨハネの水のバプテスマであるなら、イエスこそが「新しい霊」によって救いを完成されるお方なのである。

**34 神の子** バプテスマを受けたイエスに「わたしの愛する子」(マルコ1・11)との天の声があったと、他の三福音書は記す。ヨハネ福音書ではその場面の代わりに、洗礼者ヨハネが、30節での先在性の証言と合わせて、イエスと御父との永遠の関係を証言していると言えよう。

**35 ふたりの弟子たち** 次週分(37)を参照のこと。

**36 見よ、神の小羊** 前日の証言(29)の要約だが、驚くべきことは、この言葉の中に「私ではなく」イエスに従え」との意図が、おそらく含まれていたであろうことである。弟子を他の教師に譲ることは当時の社会では考えられないことであり、ここにイエスの前でのヨハネの徹底した謙遜が表されている(3・30参照)。

**参考図書** 注解書 G. R. Beasley-Murray (Word), F. F. Bruce (Eerdmans), B. Lindars (New Century Bible), 他 The IVP Bible Background Commentary: NT.

聖書

ヨハネー・29〜37

タイトル

心をきれいにしてくださるイエス様

暗唱聖句

見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

目標

神の小羊キリストを信じ、罪の赦しを頂く。  
ヨハネー・29

導入

(飯田勝彦)

今日から、アドベント第2週に入りました。この一週間もイエス様の誕生を待ち望みながら過ごしましょう。

さて、もし皆さんの大切にしている物に黒いペンキが付いたらどうしますか。もちろん一生懸命、きれいにするでしょう。服や靴などが汚れたら、洗濯をしてきれいにすることができます。でも、心はどうでしょうか。

**私たちには罪がある**

よく「あの人、性格悪いよね」とか反対に「あの人、本当に良い性格してるね」と言ったりしませんか。皆さんが、性格が悪いと思う人はどんな人でしょうか。親切ではなく、いつも人の悪口を言っている人、自分のことしか考えない人、だれかをいじめている人などが性格の

悪い方に入るでしょう。皆さんは、「自分はよい性格で心は汚れていない」と思いますか？

皆さんの中で、今まで一度も嘘をついたことがない人、家族と喧嘩をしたことがない人、「あの人さえないなければ良いのに」と思ったことのない人がいるでしょうか。このような思いを「罪」と言います。罪は、大切な心を汚してしまします。聖書は、「私たち人間は、罪に汚されている罪人だ」とはっきりと言っています。これに当てはまらない人はいません。

皆さんにとって心はとても大切な所でしょう。そこが罪によって汚れていて平気でいられますか。汚れていることが分かれば、きれいにしたいでしょう。でも、罪を認めないで自分の心は大丈夫だという人は、心がきれいになるどころか、罪の汚れが心の中に広がって行きます。私たちは罪に汚れた心を自分では、どうすることもできないのです。

**神の小羊であるキリスト**

私たち人間の罪が赦されるためには、血が必要でした。血には命があります。ですから、人間の罪が赦されるために、誰かが血を流し、死ぬ必要があったのです。神様

はイエス様が来られる前に、罪の汚れを取り除く方法をイスラエルの民に与えられました。それは、傷のない動物をいけにえとして神様にささげることでした。罪を犯した人は、動物の頭に手を置き、すべての罪をそれに負わせます。そして、祭司がその動物を殺した時、罪は赦されたのです。でも、本当は動物のいけにえでは、完全に罪を取り除くことはできなかったのです。ですから、神様はイスラエルの民にこのいけにえを通して、完全な救いをもたらす救い主を待ち望むようにされました。それが、救い主であるイエス様です。

動物は、私たち人間よりも劣るものです。ですから、私たちが人間の罪が赦されるためには、罪がないきよい人間の血が神様にささげられる必要があります。でも、私たちは皆、罪があり汚れた者です。ですから、一度も罪を犯したことがない、きよいイエス様が私たちのかわりになって罪をすべて負い、いけにえとなってくださいました。

ある所に、自分の罪に悩んでいる警察官がいました。彼は聖書の話聞き、自分には罪があり、永遠の滅びに行くばかりだと落ち込んでいました。ある時、夢を見

ます。永遠の滅びの道を歩いていると、前から歩いて来る人がいます。「どこに行くのか」警察官、「はい、永遠の滅びに向かっています」、「あなたはそこに行かなくてもよい」、「えっ、どうしてですか」、「わたしが代わりに行ったから」。それはイエス様でした。

イエス様は、私たちのどうすることもできない罪を、すべて背負って十字架で命を投げ出されたのです。このイエス様の十字架を信じるなら、イエス様が私たちの心にこびりついている罪を、すべてきれいに取り除いてくださいます。

### まとめ

イエス様は、私たちの罪を取り除く小羊となるために、クリスマスにこの地上に来られました。

救い主であるイエス様を信じましょう。そして、心を汚すすべての罪を、イエス様によってきれいにして頂きましょう。

♪じゅうじか♪ (ホ62、ふ14)



# 聖書 ヨハネ1・37〜42 テーマ キリストを証しする

## 序論

(高橋頼男)

バプテスマのヨハネの証しを聞いてイエスについていったアンデレともう一人の弟子(おそらくヨハネ)は、〈きてごらんなさい〉という招きに従い、このお方こそ救い主であることを知りました。アンデレは、今度は自分の兄弟ペテロをキリストのもとに導きます。イエスはペテロに目を留めて、彼を新しい名で呼ばれました。

## 一、キリストに出会う(37〜38)

「人生は出会いで決まる」と言われます。高潔で理想を持った人、ユニークな人物、愛すべき人との出会いは、私たちに大きな影響を与えます。しかし、人生の決定的出会いは、私たちの『救い主』との出会いです。バプテスマのヨハネの証しの言葉を聞いたアンデレとヨハネは、イエスについていきました。彼らは出会いのチャンスを生かし、ただちに主についていき、主に問いかけ、そして主から招きを受けました。

出会いにおいて大切なのは与えられた機会を捉えるこ

とです。主との出会いの機会をとらえ、主を切に求めることです。また、積極的に主と交わる時を持ちましょう。私たちが意思するなら、主の側では、いつも待っていてくださるのです。「それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵みを施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。…すべて主を待ち望む者はさ

## 二、キリストのところに泊まる(39)

彼らが〈どこにおとまりなのですか〉とイエスに問うと、〈きてごらんなさい〉と、親しく招かれました。彼らはその日イエスのところに泊まりました。一晚の宿りの中で彼らが持った主イエスとの深い交わりは、彼らの霊の目を開きイエスがキリストであることがわかったのです。それは実に幸いなイエスと共なる宿りでした。

〈きてごらんなさい〉とイエスに招かれて共に宿り、「きょう、あなたの家に泊まることにしている」(ルカ19・5)と言われて、喜んでわが家にお招きし、「一緒に泊まり下さい」と強いて願ってお泊めする(ルカ24・29)のです。場合や状況はいろいろですが、イエスと共に宿り、交わる幸いは変わりありません。私たちは、イエス・

キリストを昔存在した一人物とするのではなく、十字架にかかり、復活して、今現実に生きておられる人格的存在として、心の中に信じ、受け入れ、交わることが許されているのです。

「わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める。わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主のうるわしきを見、その宮で尋ねきわめることを」(詩篇27・4)。私たちの祈り、静まりの時が豊かになるように、イエスと共なる「時」と「場所」と「心」を備えましょう。

### 三、キリストを証しし、キリストのもとに連れていく(41〜42)

アンデレは、まず兄弟ペテロをイエスのもとに連れていきました。主は、このペテロに目を留めて、彼に尊い名をつけて召されました。この後、ペテロは教会における大きな働きを担う器となりました。それはアンデレの思いをはるかに超えていたことでしょう。さらに、アンデレは、パン5つと魚2匹を持つ少年をキリストのもとに導き(ヨハネ6・8〜9)、主イエスに会うことを切望する異邦人であるギリシャ人(ヨハネ12・21〜22)をピリポと一緒にキリストのもとに導いています。アンデレ

は、他者をキリストに導くことを喜びとし、そのことを切に願った人であったと思われます。しかし誰でも、大きな喜びに満ちた出会いを経験するなら、じっとしているわけにはいきません。真の出会いをするなら、この出会いの喜びと幸いを他の誰かにも伝えたいとの切なる願いがおこります。

「アンデレ活動」は、あらゆる伝道の基本であり、だれにでもできる伝道です。祈りの中でキリストに導くべき隣人を示され、ノートやカードに名を書いて祈りはじめます。その人を愛し、真の友となるために聖霊による神の愛(ローマ5・5)を祈り求めます。さらに、その人に近づくための知恵や方法を祈り求め、それを実践していくのです。愛と信頼関係を通して福音は伝わります。子ども、中高生、大人、だれに対する伝道でも基本はこれです。そのために、自分自身が日々キリストに近づき、キリストとの生きた交わりがあることが秘訣です。

### 結論

私たちも、キリストとの確かな豊かな出会いを経験し、キリストを喜びと確信をもって証しし、人々をキリストのもとに導くものとならせていただきましょう。

## 研究資料

(中島啓一)

## テキスト

37 そのふたりの弟子 一人はアンデレ(40)だが、もう一人の名は記されていない。この福音書を記したいわゆる愛弟子(13・23他、おそらくヨハネ)と見る説が主流だが、この福音書で何度かアンデレと一緒に登場するピリポという説もある(6・5～8、12・21～22)。ヨハネがそう言うのを聞いて 先週分(36)を参照のこと。イエスについて行った(ギ)アコルーセオーは、共観福音書における弟子たちの召命の場面すべてで用いられている動詞(マタイ4・20他)。ここでも、単に「ついて行った」だけでなく、「(弟子となる前提で)従った」という意味が含まれているだろう。ヨハネから、やがて来られる救い主について何度も聞かされてきた彼らは、今、その救い主を目の前にした。そして、ただ単にヨハネの言葉(おそらく「彼に従え」と言う意図が含まれている)に促されたからという理由だけでなく、自発的な思いからも、イエスに従って行ったのであろう。

38 何か願いがあるのか この福音書でのイエスの第一

声。イエスの前に来る者は誰でも、イエスに何を求めているのかを明らかにしなければならぬ。彼らの願いはイエスをもっと知りたいということであった。どこにおとまりなのです か 滞在場所を訪れて、イエスの話を聞きたいとの願いが婉曲的に込められた質問だろう。

39 きてごらんない。そうしたらわかるだろう 二人の質問の意をくみ、深い交わりへと招く答えであった。時は午後四時ごろであった 原語では「(夜明けから)10番目の時」。距離によつては、日没までに歩いて家に到達できない時間であり、旅人をもてなすことが美德とされる文化においては、そのような道連れを家に招くことが期待された。イエスがその夜、二人に何を語ったかは記されていないが、その会話を通して彼らが、洗礼者ヨハネの証言は間違っていないかつたと確信するに至ったことは間違いないだろう。

40 シモン・ペテロの兄弟アンデレ ペテロは初代教会で最も有名な人物の一人であった。アンデレを彼の兄弟として紹介した上で、彼がイエスと会い、本名のシモンからペテロと呼ばれるようになった経緯が示される。

41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った 洗礼

者ヨハネの場合と同様、アンデレはイエスと出会った喜びを自分の内だけにとどめておくことが出来なかった。最高のあかしは、イエスを人々に紹介することである。メシヤ（訳せば、キリスト） 新約で〔ア〕メシヤが用いられているのは、こと4・25の二箇所だけである（〔ハ〕〔ア〕メシヤと〔ギ〕キリスト、いずれも「油注がれた者、救い主」の意。旧約でのメシヤの用例は、①イスラエルの王（「この人こそ、主が油を注がれる人だ」サムエル上16・6）、②祭司（「油注がれた祭司が…」レビ4・3）、③預言者「わが油そそがれた者たちにさわってはならない、わが預言者たちに害を加えてはならない」詩105・15）。これら三つのうち、当時のメシヤ待望は、圧倒的にイスラエルを抑圧から解放する王としてのメシヤ像で占められていた。そんな中で、イエスは、王、祭司、預言者の三つの職をあわせ持つ、至高のメシヤとして来られたのである。このときのアンデレの理解は、おそらくまだ不十分な、世間の期待するメシヤ像と遠くないものであったであろう。けれどもそれは、後にイエスをより深く知るにつれて、イエスの宣教の性格に沿ったものへと変わっていったのである。

42 そしてシモンをイエスのもとにつれてきた この時アンデレは、後年、ペテロが教会において大いなる働きを担うことになるなどとは、夢にも思わなかったであろう。しかし、イエスは彼に目をとめて言われた イエスはペテロに備えられている使命をご存じであった。そしてその短い会話の中で、そのことを暗示されたのである。ヨハネの子シモン マタイ16・17「バルヨナ・シモン」（ヨナの子シモンの意）は短縮形。どちらも同名の他者と区別するための一般的な呼び方であった（聖書の中だけでも多くのシモンが登場する）。ケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする〔ア〕ケパ、〔ギ〕ペテロは、いずれも「岩」の意。教師が自分の弟子に特徴的なニックネームを与えることは一般的なことであった。また、旧約聖書では、神が、人の新しい特徴を示すために、その人の名を変え、することもよく見られる（アブラハム、サラ、ヤコブなど）。後の、「あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」（マタイ16・18）との言明の中に、ケパ（＝ペテロ、岩）との命名理由が示されるのである。

参考図書 12月4日分と同じ。

## 聖書

ヨハネー・37〜42

## タイトル

すばらしいイエス様を伝えよう！

## 暗唱聖句

わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った。  
ヨハネー・41

## 目標

キリストに出会い、キリストを証しする者となる。

## 導入

（飯田勝彦）

アドベント第3週に入りました。皆さんは、お菓子の当たりくじが当たった時「やったー！ ラッキー」と声を上げて喜んだでしょう。うれしいことや、お腹が痛くなるほどおもしろいことがあったら、それを誰にも言わないでいられますか？ お父さんやお母さん、兄弟や友だちに伝えるでしょう。

それと同じように、今日、登場するアンデレも、素晴らしい喜びを伝えた人でした。

## イエス様に出会ったアンデレ

アンデレは、バプテスマのヨハネの弟子の一人でした。ヨハネは、イエス様が来られることを前もって多くの人に知らせる大切な役目をしていました。以前からヨハネ

は、「わたしのあとから来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである」とイエス様のことを話していました。ですから、それを聞いていたアンデレたちは「イエス様ってどんなに素晴らしい方なんだろう」と期待して待っていたでしょう。そのイエス様が来た時、ヨハネは「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。『この方は、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』と言ったのはこの方である」とイエス様を紹介したのです。すると、ヨハネの弟子であったアンデレたちは、イエス様のことをもっと知りたいと願い、イエス様の後について行っただけです。イエス様は、彼らをご自分の泊まっている場所に連れて来られ、彼らを泊められました。

もし、野球選手のイチローや、サッカー選手の長友が家に泊めてくれたらどうでしょう。もう、それは飛び上がるほど嬉しいでしょう。恐らく、アンデレたちは、イエス様にたくさん質問し、イエス様のことを知ることができたに違いありません。彼らがイエス様について知ったことの中で、最も大切なことがあります。それは、イエス様が救い主キリストであることです。アンデレたち

は、自分たちの救い主キリストに出会うことができ大変喜びました。

皆さんは、教会学校でよくイエス様が素晴らしいお方であることを聞いているでしょう。そのイエス様を心から知りたいと願っていますか？ イエス様は、ご自分を知りたいと求める人に、多くのことを教えてください。

皆さんは、その救い主イエス・キリストに出会えますか？

### イエス様を伝えたアンデレ

救い主キリストに出会ったアンデレが、まずしたことは何でしょうか？ 「シモン、聞いて！すごいニュースがあるよ。絶対に驚かないでね。実は、昨日、救い主キリストに出会ったんだ！」とアンデレは、兄弟シモンにイエス様のことを伝えたのです。でも、それを伝えただけではありませんでした。アンデレは、シモンをイエス様の所まで連れて行ったのです。アンデレにとってイエス様に出会った喜びは、自分だけで留めておくことができないほどの喜びだったのです。また、アンデレは、シモンにも、イエス様によって救われて欲しいと願っていたでしょう。

皆さんは、罪を取り除かれるイエス様によって救われ、心にすばらしい喜びを頂いていますか？ イエス様を信じる人には、罪の赦しと永遠の命、そして天国への希望が与えられています。また、神様に愛されていることを知ることができます。これは本当に大きな恵みです。この恵みを頂いて喜んでいられるなら、お父さんやお母さん、兄弟や友だちにイエス様を伝えたいくなるでしょう。そして、イエス様のことを聞くことができる教会に来て欲しいと願うでしょう。

イエス様を紹介されたシモンは、イエス様の弟子となり、やがて多くの人たちにイエス様による救いを証しする人になりました。そして、シモンによって多くの人たちが救われて行ったのです。

その結果、イエス様の恵みがこの日本にも、また私たちにも伝えられているのです。

### まとめ

クリスマス、救い主として来てくださったイエス様をアンデレのように伝えて行く者にされましょう。いや、もうそのようにされていることを感謝しましょう。

♪すくいの主イエスに♪ (ホ95、イン37)



# 聖書 ヨハネ2・1～11 テーマ 変化をもたらすキリスト

## 序論

(高橋頼男)

水がぶどう酒になるという変化は、自然界のそれなりの過程と熟成期間を経て可能だということは理解できます。しかし、それらを全部省いて一瞬で水がぶどう酒に変わるとするのは、奇跡としか言いようがありません。主イエスは、ガリラヤのカナにおける結婚式に招かれ、その宴において最初の奇跡（しるし）を行われました。

## 一、ぶどう酒がなくなる（1～3）

イエスラエルの結婚の宴は一週間も続いたようです。人々にとってこれは特別な楽しみの時で、その間、大いに喜び楽しみました。そして、その喜びと楽しみの中心にぶどう酒がありました。しかし宴席の真つただ中でそのぶどう酒が尽きてしまったのです。理由は、イエスの弟子たちが大勢で押しかけたからとも推測されます（参照・研究資料）。とにかく、イエスも弟子たちも祝宴に参加し、婚礼の喜びと楽しみを共にしたのです。

主催者側としては、集まってくれた客に対して大変な

失態です。せっかくの喜びの席が台無しになりかねない事態です。しかし、その宴席にイエスがおられたということは、本当に大切なことでした。

## 二、マリヤの信頼、しもべらの忠実（3～8）

この結婚式で母マリヤは主催者としての何らかの責任ある立場を持っていたようです。つまり婚礼の祝いの席を守る立場にありました。そこで、彼女はこの窮状をすぐさまイエスに訴えました。イエスが必ず何かをしてくれることを信じていたからです。これまでもこのようなことが何度もあったのでしょうか。母のイエスに対するゆるぎない信頼がありました。

### ①イエスにありのままを訴える

ああしてください、こうしてください、なんとかしてください、というのではなく、マリヤは現在の窮状のありのままを、簡潔にイエスに告げました。全幅の信頼があったからです。しかも、イエスがなされることかどのようなことであつても必ず最善をなされるという信頼です。イエスの返事は、拒絶というのではないとしても、決して良い返事ではありませんでした。しかし、マリヤの一貫した信頼に変わりはありません。

## ②しもべらに備えを言いつける

さらに、マリヤの信頼は、しもべらにイエスの言われることは何でもするようにと前もって言いつけるところにも表われました。困難や危機の中で為すすべもなく無為に過ごしたり、また怠惰であつてはなりません。主に信頼し、期待し、今なすべきことをしっかりと成し遂げることが大切です。

## ③しもべらの忠実な働き

しもべらは、マリヤに言われたように、また、イエスが命じられたように、誠実かつ忠実に、すべての襲<sup>かめ</sup>にふちまで水をいっぱい入れました。もし、こんなことに何の意味があるかと問い、不信を持つなら、このようなことは決して出来ません。行つたとしても適当なところで役割を済ませたことでしよう。彼らはしもべの立場に徹して、言われたとおり忠実に働きました。そして、彼らにもまた、自分たちの理解を超えてイエスがなされることへの期待があつたのではないでしようか。その期待は見事に答えられたのです。へ水をくんだ僕たちは知っていた。奇跡を行われたのはイエスですが、その業に参加したマリヤの信頼としもべらの従順がありました。

## 三、水がぶどう酒に変わるとは(11)

しもべらが汲み、持つていった水は、変化して良いぶどう酒となりました。ぶどう酒をなめた料理頭は、その素晴らしい味わいに驚いて花婿を呼んで褒めました。このようにイエスはマリヤの訴えに応えて水をぶどう酒に変え、婚礼の危機を助けられました。確かにそれが奇跡の直接の目的でした。しかし、この奇跡にはそれ以上の意味がありました。〈そして弟子たちはイエスを信じた〉。この奇跡の本当の意味と目的は、この奇跡を通して神の栄光が現され、弟子たちがイエスを神の子、救い主と信じるためです。イエス・キリストは人間の罪を赦<sup>ゆる</sup>し、死から命へと救うことのできる神であり、救い主であるということに分からせるためでした。人間の魂の救いほど大きな変化をもたらす奇跡はありません。彼らはイエスをキリストと信じ告白する者と変えられていくのです。

## 結論

危機の中で、キリストは私たちの状況を変え、私たちを変革してください。それは、素晴らしい経験です。わたしたちは、主イエスに全く信頼し、キリストの変革をいただきましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

## テキスト

1 三日目に ナタナエルの召命から二日後(一日目も数に入れる)。この「三日目」が十字架と復活による栄光を予感させているという説、1・19から数えて七日間となる(1・39でも日付が変わる)ことから、天地創造に比しての「新創造」が提示されているという説もあるが、実際そういう意図があるかどうかは不明。ただしヨハネが受難に多くのページを割いていること、また新創造が主要テーマの一つであること(3・3、20・22等)は確かである。ガリラヤのカナ ナザレの北北東6kmのケフル・ケンナ(記念する教会が二つある)、あるいはナザレの北14kmのキルベト・カーナ(現在は廢墟)。いずれも、婚礼の主人とイエスの家族との親しい関係を説明できる距離。婚礼 ユダヤの結婚式は多くの客を招いて七日間も行われた。

2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた 母マリヤが接待役を務めていたことと合わせ、家族ぐるみの交わりがあったと推測される。大勢の弟子たちが一緒に出

席したことも、ぶどう酒の欠乏の一因かもしれない。

3 ぶどう酒がなくなった 来客は相応の祝儀を持参することが通例であったので、ぶどう酒が無くなることは、主人の社会的評判を落とすことにつながった。母はイエスに言った 困ったときは、このようにイエスを頼りにしてきたのであろう。この時も窮状をありのまま伝えた。

4 婦人よ 通常は母親に対して用いない、丁寧だが距離を置く呼びかけ。決して無礼な表現ではない。イエスの助けを必要とする者は、たとえ母であっても、母と子の関係に基づいてそれを求めるべきでないことを示す。

あなたは、わたしと、なんの係わりがありますが 聖霊を受け、御父から遣わされた使命を果たすための力をお受けになったイエスにとっては、父の御心に従うことが、何にも優先されるのである。わたしの時は、まだきていません ヨハネ福音書において「時」(ギリシア語)は、十字架と復活による栄光の時を指し示す。その時はやがて来る(17・1)のだが、今はまだ来ていないのである(7・30、8・20)。

5 母は僕たちに言った… マリヤは、イエスの一見不親切に思える答えの中にも、その真意のかけらを汲み

取った。ここに、イエスに託すならば問題は解決するに違いないと信じるマリヤの強い信仰を見ることが出来る。

**6 ユダヤ人のきよめのならわしに従って** この「水」は手を洗う、器をきよめるといった宗教的儀式のために用意されたものであり、旧約の律法を象徴している。イエスはそれを、よりよいものに置き換えてくださる。**四、五斗** 2、3メトレテス(1メトレテスは約39リットル)。**石の水がめ** 陶器などと違い、石のかめは宗教的な汚れを受けることがないので、一般によく用いられた。六つ完全数に一つ足りない数字で、律法主義の不完全さを象徴していると解釈する注解者もいる。

**7 彼らは口のところまでいっぱいに入れた** 彼らはマリヤに言われたとおりに、イエスの指示に完全に従った。**8 料理がしら** 料理や酒についての責任者。

**9 ぶどう酒になった水** 水をぶどう酒に変えたイエスは、律法を「廃するためではなく、成就するために」(マタイ5・17) 来られた。この方にあつて古い律法に代わり「霊とまこと」(4・24) による新しい礼拝が始まる。**10 初めにいぶどう酒を出して…** 人々の感覚が鈍くなつていくにつれて、そうすることは世の常である。し

かし神の恵みはそうではない。末広がりの恵みである。

**11 しるし** 単なる奇跡ではなく、その背後にある霊的な意味を悟らせるもの。この福音書に記されている7つのしるしのうちの最初のものである(他に4・46、54、5・1、9、6・1、14、16、21、9・1、12、11・1、44)。**その栄光を現された** 「わたしたちはその栄光を見た」(1・14)。受肉された言であるお方が、その創造の力をあらわされた。「神の国」はしばしば祝宴にたとえられ(マタイ8・11他)、ぶどう酒はそれを特徴づけるものである(イザヤ25・6)。カナの婚宴においてあらわされたイエスの栄光は、御子こそが神の国の恵みを世にもたらすお方であることを示している。モーセの最初のしるしは水を血に変えることであつた(出エジプト7・20)。それに対し、イエスが水をぶどう酒に変えられたことは、イエスが、古い律法の受領者をはるかにしのぐ、新しい命の授与者であることを力強く示している。**弟子たちはイエスを信じた** 十字架と復活の栄光へとつながっていくこれらのしるしを通して、弟子たちの信仰は強められていく。

**参考図書** 12月4日分と同じ。

## 聖書

ヨハネ2・1～11

## タイトル

イエス様によつて変えて頂こう！

イエスは、この最初のしるしをガリラヤ

のカナで行い、その栄光を現された。

ヨハネ2・11

## 目標

キリストの变革を体験する者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

アドベント第4週に入りました。皆さんは、手品が好きですか？ 白いハンカチをシルクハットの中に入ると、そのハンカチが白い鳩に変わったり、何も手に持っていないのに突然、トランプが出てきたりする手品があります。そのようなものを見ると本当にびっくりしますね。手品にはすべてタネや仕掛けがあります。でも、イエス様は手品ではなく、奇跡を行われる方なのです。

## 水をぶどう酒に変えたイエス様

ある時、イエス様と弟子たちはガリラヤ地方にあるカナという町で行われた結婚式に招待されました。今でも、結婚式の後には披露宴があり、家族や親戚、友人の人たちが集まってお祝いをします。当時の結婚式は披露

宴も含めて1週間程度行われたそうです。ですから、結婚式はお祭りのような感じだったようです。その婚礼には、食事はもちろんですが、ぶどう酒が出されました。婚礼に参加した人たちは、ぶどう酒を飲み、歌ったり、踊ったりと楽しく婚礼を盛り上げたのです。

しかし、しばらくするとイエス様のお母さんが「ぶどう酒がなくなりました」とイエス様に言ってきました。婚礼を盛り上げるためには、ぶどう酒はとても大切でした。また、ぶどう酒がなくなれば、参列した人たちに失礼になります。母マリヤは、イエス様ならなんとかしてくれるだろうと思つたのでしょう。でも、イエス様は「わたしの時は、まだきていません」と答えられました。そして、しばらくしてイエス様は空の水瓶六つに「水をいっぱい入れなさい」と弟子たちに言われました。弟子たちはイエス様の言われる通りにしました。するとイエス様は「これを料理がしらのところに持って行きなさい」と言われたのです。婚礼に必要なのは、水でしたか？ いえ、ぶどう酒です。弟子たちは、その水がめを料理かしらの所にもって行くと、何とそれはすべてぶどう酒に変わっていたのです。料理がしらは非常に喜び、花婿を

ほめました。でも、弟子たちはそれがどこから来たのかを知っていたのです。

イエス様は、水をぶどう酒に変えるほどの奇跡を行うすばらしいお方です。

### 私たちを変えてくださるイエス様

弟子たちは、バプテスマのヨハネからイエス様がバプテスマのヨハネよりもまさる方であると聞いていました。弟子たちは、今までイエス様と一緒に生活しました。そして、イエス様こそ、神の小羊であることも知っていたのです。しかし、この奇跡を見た後、彼らはイエス様を信じる者に変えられました。

イエス様は、天に上げられるまでに、このぶどう酒の奇跡だけではなく、他にも多くの奇跡を行われました。皆さんも、いくつか挙げる事ができるでしょう。でも、イエス様はそのような奇跡を行うただにこの世にいられたのではありません。それは、私たちがイエス様を信じる者になるために来られたのです。イエス様を信じる時、私たちは罪人から救われた者に変えられます。不安や恐れの中から、喜びと感謝の心に変えられます。また、神様を愛し、人を愛するように変えられるのです。

Nさんは小学生の時、教会学校へ行っていました。でも、お父さんの転勤で引越してから教会から離れてしまいました。それから、数十年後、教会に通うようになりました。聖書のお話を聞いているうちに、自分が罪人だと気づきました。そして、救われたい！とイエス様にすべての罪を告白し、救われました。Nさんは、イエス様を信じてからいつも前向きに生きて行く心に変えられたそうです。

### まとめ

イエス様は、皆さんのが苦しく、悲しい気持ちで生活することを願ってはられません。心から喜びに満ちて生活できるように「変えたい」と願っておられます。

イエス様は、あなたを心の底から変えてくださるお方です。もう、イエス様によって変えて頂きましたか。まだの人は是非、「イエス様、わたしの心を変えてくださるのはあなただけです。どうか変えてください」と祈りましょう。イエス様は必ずあなたを心を変えてくださいます！

♪すくいの主イエスに♪（ホ95、イン37）



# 聖書 ヨハネ3・16～21 テーマ 神のプレゼント

## 序論

(福井文彦)

今日の聖書箇所は、福音書の要約であり、聖書の真理がこれに集約されています。ここに聖書の中の聖書と呼ばれる16節が含まれています。その16節を要約すれば、「救い主キリストを神からのプレゼントとして信じ受け入れるなら、永遠の命を得ることができる」との約束なのです。

## 一、神は、世を愛された

〈神は…この世を愛して下さった〉と、神の愛の対象は〈この世〉です。〈この世〉とは神の選民イスラエルだけでなく、時代も民族も越えた全人類のことです。その〈この世〉は神に愛されるだけの価値があったのでしょうか。まったくありませんでした。なぜなら、神を知らず、いやむしろ神を否定し、無視し、背を向け、信じない世界が〈この世〉だからです。神を否定し、信じない人間は、神の代わりに、被造物を神と崇める者となり、それが自己中心性となって表れるのです。

その結果、具体的な罪を犯す者となりました(マルコ7・20～23、ローマ1・28～32)。人は罪を犯すから罪人ではなく、生まれながらの罪人であるから罪を犯すのです。ですから、〈この世〉は「罪の世」であり、「汚れた世」です。その「この世」を、それにもかかわらず、神は愛してくださったのです。ここに無条件の愛を見ます。人間の愛は「もし…ならば」の条件付きの愛です。しかし、神の愛は、「にもかかわらず」の、無条件で絶対的な愛です。ですから、この神の愛の対象から漏れる人は一人もいません。

## 二、ひとり子を賜ったほどに

神は無条件の絶対的な愛で〈この世〉を愛されたのです。それは人が神から離れていても、神に敵対する者であっても、変わることなく愛する愛です。さらに驚くべきことは、〈神はそのひとり子を賜ったほどに〉愛してくださったのです。この〈賜る〉という言葉は、殿様が家来にご褒美を与えるような意味にとられますが、これは、実は「お捨てになった」ということなのです。それは、〈賜る〉のギリシャ語「パラディドナイ」には、「放棄する」という意味があるからです。つまり、「神はひとり子

をお捨てになったほどにこの世を愛して下さった」ということなのです。神は愛の対象、喜びの源であるひとり子イエスを犠牲にしてまで、〈この世〉を愛されたのです。

そのイエスが、「モーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない」(14)と語られました。これは、明らかに十字架のことを意味しています。ですから、神がひとり子をお捨てになった犠牲とは、イエス・キリストの十字架のことです。神は、一つの罪も少しの汚れもないお方、捨てられる理由の全くないひとり子を十字架におかけになるほどに、この世を愛されたのです。

### 三、御子を信じる

神はなぜ、それほどまでのことをされたのでしょうか。ひとり子を十字架にかけるほど、世、すなわち私たちを愛してくださった、その愛は私たちに何をもたらしたのでしょうか。それは、

① 永遠の滅びからの救いです。永遠の滅びとは、永遠の刑罰です。その世界は神との交わりのない世界、愛の温度の一度もない、慰め(なぐさ)めのかけらもない世界、一筋の光さえない暗黒の世界、それが永遠の滅びです。この永遠

の滅びは、確実に、すべての人に来ます。しかし、イエス・キリストの十字架の救いは、この滅びから私たちを救います。

② 永遠の命への救いです。永遠の命とは、ただ単に寿命がいつまでも続くというのではなく、死に打ち勝つ命であり、全く質の違う、永遠に神のもとにあり続ける人生に導き入れてくれる命です。それは、イエス・キリストの復活と同じ復活にあずかることです。

その命を得て自分のものとするために必要なことは、悔い改めと信仰です。①心の罪、言葉の罪、行いのあやまちでも、正直に認めて神に告白することです(イヨハネ1・9)。②もう一つは、イエス・キリストが自分に代わって死んでくださったことを信じることです(ローマ10・9)。

#### 結論

神の愛のゆえに、キリストによって世界のすべての人々に救いの扉が開かれています。すなわち、救いは世界のすべての人々のために備えられています。それゆえこの世の中のどんな人でも、キリストを信じ受け入れるなら救われるのです。

## 研究資料

(井上義実)

聖書の最高峰、聖書の中の聖書と呼ばれるヨハネ3・16を含む文節である。イエスがニコデモに語られた直後に記されている。イエスが語った言葉の続きなのか、ヨハネの説明なのか問われる。イエスとニコデモとの会話を受けて、ヨハネが救いについて記したと考えることが妥当であろう。

## テキスト

16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった **ひとり子** (ギ)モノゲネース) 形容詞であり、単数形の息子 (ギ)フィオス) と共に一人という唯一性が、強調されて用いられている。英訳聖書 (NIV) では、ワン・アンド・オンリー・サン (一人にして唯一の息子) と訳している。イエスが賜物として、この世に与えられたのは、神の愛の結果である。神の愛は、人が神から離れていても、敵であったとしても変わらなく愛される愛である (ローマ5・6〜8参照)。神の側から、一方的な愛としてイエスを送られた (Iヨハネ4・10参照)。この世 (ギ)コスモス) 新約聖書中186回用いられている。ヨ

ハネ福音書に78回、ヨハネの手紙に24回、ヨハネの黙示録に3回、ヨハネは計105回この語を用いている。ヨハネはこの世についての詳細な考察を行なっている。この個所で、この世とは、時代も民族も越えた全人類を指している。神の愛に与<sup>あづか</sup>れない人は一人もないということである。神に反する思むべきこの世ではなく、神の慈しみによって救われるべきこの世である。御子を信じる者信じる (ギ)ピステウオー) 現在分詞能動態で記されている。イエスへの信仰は現在のみならず将来も信じ続けることである。人が持つ自発的、能動的、意思的な信仰であることが解る。滅びない 滅び (ギ)アポロウ) とは永遠の滅亡を指している。永遠の命との対比で記されていることが多い。この文脈で強調されるのは、永遠の滅びではなく、永遠の救いである。永遠の命 ヨハネ福音書の主題である。イエスによる救いにあるものは信仰によって現在すでに、死から命に移されている (5・24参照)。イエスによって与えられる神の命は、信じた時点より始まり、永遠に及ぶものである。

17 世につかわされた **つかわす** (ギ)アポステロー) ヨハネ福音書では、イエスが神から遣わされたと記す個

所が38箇所ある。イエスの使命が神からのものであることが示される。他の福音書に比べて特徴的である。世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。さばく(ギクリノー)と訳された語は、広い意味を持つ言葉であるが、終末に不義に定めるという意味も持つ。ユダヤ的思想ではメシヤは義をもつてさばくために来臨するという考えがあった。イエスがこの世に降誕されたのは、人をさばき、滅びに定めるためではない。16節では永遠の滅びではなく、永遠の命を持つために救いを備えられたことが語られている。本節ではイエスが人をさばくのではなく、人を救い、永遠の命に生かすために来られたことが記されている。しかし、再び来られる再臨のイエスには、義とさばきという面が強く表される。

18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれていて イエスを通して神を信じることに、信じないこととの差異は非常に大きい。信じる者はさばかれず、信じない者はさばかれる。そのさばきはすでになされていることが示されている。さばかれないイエスを信じる者はさばかれない。信仰によって義とさ

れた義認の結果である。義認は十字架でなされたイエスのあがないを信じることに始まる。神は完全な罪の赦しを与えてくださり、罪の刑罰から解放してくださる。信じる者を義であると宣言され、新しい神からの命に生かしてくださる。さばきにおいては「さばかれない」のであるが、同時に積極的な生に導かれる。さばかれている(ギクリノー) 完了形受動態で記されている。すでにさばきを受けており、なおさばきは継続している。イエスを信じないという決断と意思は、その人が生きている死んでいるという状態に関わらず、さばきに置かれ続けるのである。イエスを信じない者は生きていても、滅びの淵にあるのである。神のひとり子の名 名(ギ)オノマ十戒にある神の名をみだりにとなえてはならないとの戒めから、ユダヤ人は神の名を大切にした。ユダヤ思想では、名は単に区別のためにあるのではない。名は人格、力を宿すものとして受け止められた。イエスの御名は、イエスの性質、イエスの力を持つのである。イエスの名を信じることは、イエスのすべてを信じることである。

参考図書 11月27日分と同じ。

## 聖書

ヨハネ3・16、21

タイトル  
暗唱聖句この世で一番素晴らしい贈り物  
神はそのひとり子を賜ったほどに、この  
世を愛して下さった。ヨハネ3・16

## 目 標

神様が送ってくださった救い主キリスト  
を信じ、永遠の命を得る。

## 導入

(松浦みち子)

クリスマスおめでとうございます。クリスマスプレゼントをもらった人はいますか？ もらっていない人も大丈夫！ 今日は神様からすべての人に最高のプレゼントが与えられた日なのです。えっ、いったいどんなプレゼントでしょう。私たちが手にするものは、どんなに素晴らしいものでも古びたり、なくなったりしますね。でも、神様からのプレゼントはいつまでも変わらない、なくならない最高のプレゼントです。それは何だと思いますか？ 「かわいい赤ちゃんです」。その赤ちゃんの名前はイエスと名付けられ、布にくるまってすやすや眠っています。なぜ、赤ちゃんのイエス様が、私たちにプレゼントされたのでしょうか。

## なぜ赤ちゃんイエス様が生まれたの？

神様はこの世を創造され、最初の人アダムとエバをエデンの園に住まわせてくださいました。ここではいつも神様とお話をして交わり、ふたりは楽しく喜びに満ちた日々を過ごしていました。病気の心配もなく、死もありません。なにをしても自由です。しかし、ただ一つだけしてはならない約束ごとがありました。「園の中央にある善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬ！」と。ところが、ある日、彼らは、蛇の甘い誘惑のことばにだまされてしまいました。「食べてはならない。それを食べるときつと死ぬ」という神様のことばに従わず、食べてはならない実を取って食べてしまいました。ああー、なんてことを！

神様に従わなかった、このことが罪となりました。今までの神様と人間との親しい関係が断ち切られてしまい、罪が入り込んできたのです。神様は変わらない愛をもつて、「あなたはどこにいるのか。」と呼びかけてくださっているのに、彼らは神様の顔をさけて、神様から身を隠すようになりました。その時以来、人は生まれつき罪の性質を持つ者となりました。

罪っていうのは、神様の方を向かないで、神様に背を向けて自分勝手に歩むことを指します。この罪を持ったまましていると、人は皆滅びに向かって進み、死ななければなりません。

ところが神様は、人間が神様に背を向け離れた時から、もう一度、関係を修復するご計画を用意して下さったのです。神様の人間に対する愛は揺らぐことがありません。どんなに罪深い「この世」でも愛し続けてくださっている聖書に記されています。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった」(ヨハネ3・16)。「ふうん、なるほど。神様は世界中の人を愛して下さったのか。でも、ぼくには関係ないや」。そう、思わないで、ちょっと、待つてください。関係ない人なんて、ひとりもいません。神様の愛はあなたに、ここにいるお友だちひとりひとりに注がれているのですよ。「この世」のところにあなたの名前を入れて読んでみてください。「○○を愛して下さった」。ほら、神様が○○くん、あなたを愛してくださっていることがわかるでしょう。しかし、残念なことに、なかなかこの愛に気付く人がいません。でも神様は私たちに「わたしの目には、あなたは高

価で尊い。わたしはあなたを愛している」(イザヤ43・4新改訳)と言い続けてくださっています。この愛をあらわすために赤ちゃんイエス様が生れたのです。

### イエス様のご生涯

人間の赤ちゃんとなってこの世に来てくださったイエス様は、家畜小屋で生まれ、貧しい大工の子として育ちました。成長されたイエス様は、寝る暇もないほど忙しく、病氣の人を癒し、罪を赦し、孤独な人の友となって、父なる神様の愛を示してくださいました。そして、最後は十字架にかかり人間の罪の身代わりとして死んでくださいました。これは神様のご計画でした。なぜ、罪のない方が十字架で死なねばならなかったのでしょうか。それは、イエス様によってこの世が救われるためだったのです。「御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るため」に、神様はイエス様を誕生させ、その生涯を通して愛を示し、信じる者に永遠の命を約束されたのです。この素晴らしい神様の愛のプレゼントを、「ありがとう!」と感謝していただきます。信じて受け取るだけでいただける、最高のクリスマスプレゼントです。

いざうたえよ (こ26、こ改70、ホ32)



# 牧羊ひろば



鎌倉深沢教会 土屋開夫

「愛する兄弟たちよ。堅く立つて動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」（Ⅰコリント15・58）

鎌倉深沢教会の教会学校は、この「牧羊ひろば」に書かせていただくような精力的な活動や成果は、ある意味、何もありません。しかしながら、そんな中にも主の大きな憐れみ、励ましが与えられています。事あるのままお証ししたいと思えます。よろしければ、しばらくお付き合ってください。

## ●かつての教会学校

鎌倉深沢教会は一九八五年から開拓伝道が始まり、一九九〇年から教団の教会（伝道所）としてスタートします。

した。私は八代目の牧師として遣わされ、3年目を迎えています。

かつては多くの子ども達が集い、また平日にも幼児教室や子ども教室の様なものを行い、保育経験のある専任スタッフもいたようで、水槽の熱帯魚と数を競うように子ども達が来ていたそうです。その子ども達もすっかり大きくなり、今もつながっている子女もいれば、すっかり離れている青年も多くいます。しかし、当時心に蒔かれた種はきつと心の奥に残っていると信じます。

## ●一人の女の子

さて、そんな時代もあったようですが、私が遣わされた時は、CS生徒は数名いましたが、あるご一家が来なくなり、残る生徒は男子1名となる筈でした。ところが、そこに神様は不思議なようにある日、一人の女の子を送ってくださいました。誰が連れて来た訳でもなく、神様に導かれるように自分の意志で来たのです。聞けばお祖母様が熱心なクリスチャンで遠くの集会に行っているという事でした。その影響もあったでしょう、自分は近くのこの教会に行こうと思ったようです。とても真面目

で純粹で、驚くほど信仰深い子でした。それ以来、今も毎週欠かさず来ています。

## ●こども教会新聞

思えば、その少し前から地域の子ども向けに「こども教会新聞」を作り、配り始めていました（配っているのは妻です）。8コマの聖書マンガやクイズを載せ、学校帰りの子ども達に配ると、勿論、受け取らない子や捨ててしまう子もいるのですが、毎回楽しみにしている子もあり、結構受け取ってくれます。でも前述した女の子はそれを見て来た訳ではありません。けれども、子ども達のために祈りつつ御言の種まきをしている、その事に主がお応えくださったのかも知れません。

## ●ゼロからの祈り、求め

そのように喜んでいたのも束の間、あっという間に次の年になりました。貴重な二人のCS生徒はどちらも6年生であったため、春から揃ってCSを卒業し、ユースクラス（中学生・青年）に行ってしまうました。その結果、四月からCS生徒ゼロ、教師だけで教会学校をする

時期が経きました。東京若枝教会の飯塚俊雄先生から「生徒がいない時でも、全力でCSの礼拝を守りなさい。そうすればやがて生徒が与えられる」とアドバイスされ、それをCS教師に伝え、CS教師だけのこども礼拝を続けました。

勿論、その間、何もしなかった訳ではありません。

子ども向けには「こども教会新聞」を続けて配り、それだけでなく親御さん向けに「こんな時代だからこそ、ぜひお子さん、お孫さんを教会学校に送ってください」とアピールしたチラシを相当数、新聞折り込みしました。ご自分が子どもの頃、かつて一度や二度、教会学校に行った経験がある方もおられるだろう・・・、そんな方がお子さんやお孫さんを送って下さるのではないかと期待したのです。ところがいつまで経っても、見事に全く反応がありませんでした。



洗礼式

夏には、子ども大会を企画しました。当然それ相当の準備をし、チラシも配りました。私はメッセージ担当です。得意の手品の準備もバッチリです。大勢は来なくても、少なくとも数人は来るだろうと期待していました。誰も来ない事はないだろう。ところが・・・、開始時間が過ぎてても全く誰も来ません。連休中という事も、逆にタイミグが悪かったのかも知れませんが、さすがに私はショックを受けました。CS教師たちもガッカリした事でしょう。

私は正直、主に対する怒りも感じてしまいましたが、また同時に今まで教会学校を全て妻とCS教師に任せつきりにしていた事も反省させられました。それまで毎月一回、CS教師方が近くの公園に行つて、紙芝居をしながら教会学校の案内をしていましたが、私はそのショックと反省から、「私も一緒に公園に出て行こう」と祈りのうちに決心しました。

## ●公園お話し会

そうして公園に行くと、やはりそこには数人の子ども達がちゃんといるのです。「教会学校に子どもがいない、

来ない」と私たちは言います。確かに少子化ですが、世の中から子ども達がいなくなった訳ではありません。教会の外にはいるのです。勿論、今の時代、昔のように公園でストリートに福音は伝えづらいかも知れませんが、私は手品や人形を使いながら、必ず福音の一端でも伝えるようにしています。

イエス様の名前さえ聞いた事がない子に「イエス様」のお名前を知らせるだけでも意味があるでしょう。子どもと接する事に飢えていた私は、久しぶりに子ども達に会えて、本当に嬉しかったです。今も道を歩いていると遠くから「あ、手品のおじさん」と声をかけてくれます。おじさんという意識はありませんが・・・。



洗礼式

## ●一人の貴重な魂

それでも相変わらずCS教師だけでこどもも礼拝を守る

事がまだまだ続きましたが、ある日曜、お母さんと一緒に一人の男の子が来ました。そのお母さんは若い時に荻窪栄光教会で洗礼を受けたのですが、最近は全くどここの教会にも行っておられませんでした。けれども、荻窪のある姉妹から「教会に行きなさい」と強く勧められ、それでしぶしぶ来られたのです。その男の子がまた前述の女の子に勝るとも劣らぬ熱心さで主を求め始め、五冊セットのマンガ聖書を十回以上も読み、私の質問にも殆ど答え、フランクリングラハム大会に出席した時に決心の座に出て、その後、受洗クラスを妻が導き、そして、今年のイースターに受洗しました。この事は私たちにとって大きな喜びであり、主からの励ましでした！

現在、貴重な一名のC S生徒ですが、時々お友達が一緒に来たり、その他の幼な子たちも不定期ですが



イースターたまご探し

時々きています。

### ●涙の種まき、喜びの収穫

現在、どこの教会学校も大なり小なり苦闘している事と思います。しかし、冒頭に掲げた名言葉の通りだと思っています。子どもの伝道でも、大人の伝道でも、その方法にある意味、王道というものはないと思います。よそで上手くいってる方法を取り入れれば、上手く行くのか？ そう短絡的ではないでしょう。

ハンナのように「子どもを与えて下さい」という涙や嘆きの祈り、飢え渴きの中から、主が心に示して下さいたり、与えて下さるアイデア、「こんな小さな働きに果たしてどれ程の意味があるだろう・・・」と思う事でも、何でもいいから何かをする時、ささげる時、しばらくの待ち望みの後、主は思いがけない事を必ずしてくださるのです！ 全ての教会学校の祝福を祈ります。

「涙をもつて種まく者は、喜びの声をもつて刈り取る。種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう。」（詩篇26・5-6）

（土屋開夫）



●キリストとは誰か

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

10月2日

9日

16日

23日

命なるキリスト

道なるキリスト

ぶどうの木なるキリスト

ペテロの信仰告白

ヨハネ11:17〜27

ヨハネ14:1〜6

ヨハネ15:1〜8

マタイ16:13〜20

同25節

同6節

同5節

同16節

●旧約⑧捕囚期

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

10月30日

ダニエル①汚れから離れる

ダニエル1:8〜16

同8節

●クリスマス

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

11月6日

13日

20日

ダニエル②三人の若者たち

ダニエル③ししの口からの守り

エステル

ダニエル3:8〜25

ダニエル6:1〜24

エステル4:1〜17

同18節

同22節

同16節

11月27日  
アドベント・収穫感謝

12月4日

11日

18日

25日  
クリスマス・年末感謝

すべての人を照らす光

神の小羊なるキリスト

主を証ししたアンデレ

カナの結婚式

最高のプレゼント

ヨハネ1:1〜14

ヨハネ1:29〜37

ヨハネ1:37〜42

ヨハネ2:1〜11

ヨハネ3:16〜21

同9節

同29節

同41節

同11節

同16節

## おわりに

『牧羊者』二〇一六年度第三巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労苦に感謝いたします。

教師養成講座は、今号も引き続き、森沢尚生師に、「聖書の教える人格教育 第四回 人格教育の方法3 発見学習」を執筆していただきました。「牧羊ひろば」は鎌倉深沢教会のCSを紹介していただきました。

今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

## 『牧羊者』のご購読・ご利用について

\* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1~3年生向け)、C(主に小学生4~6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。  
信徒局 教会教育室 ホームページ  
<http://cs.jccj.info/>

\* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。  
神戸市兵庫区塚本通3-3-19  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611

聖書講解	石田高保師	小泉 創師	高橋頼男師
研究資料	金井信生師	福井文彦師	大頭眞一師
	宮澤清志師	小平徳行師	金井由嗣師
	辻林和己師	井上義実師	中島啓一師
メッセージ例	松浦みち子師	和田 治師	飯田勝彦師
	水野晶子師	土屋開夫師	後藤 真師
ワーク(A)	鎌野 幸師	吉田美穂師	佐川直実師
(B)	勝田幸恵師	山下大喜師	竹崎光則師
	野勢かほる師		
(C)	上森恭子師	田中裕明師	三輪正見師
中高科へのヒント	石田高保師	後藤健一師	小野淳子師
子ども聖書日課	田中愛子師	金田ゆり師	佐藤由香姉
フラッシュカード	丹羽 遥姉	松浦あん姉	
	山下 愛師	下崎みぎわ姉	
み言葉カード	丹羽 遥姉		
・イラスト			
ワークプロ打ち込み	多田豊子師		
校	長田栄一師	加藤 清師	山田和幸師

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一六年度 三巻

二〇一六年一〇月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団  
企画監修 日本イエス・キリスト教団・信徒局 教会教育室

神戸市兵庫区塚本通3-3-19  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
菱三印刷株式会社  
印刷所 電話 (078) 576-1396

\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み